

HOSEI

Communication Magazine

6・7

2021



特集 法政大学と SDGs

Sustainable Development Goals

SDGs(エス・ディー・ジーズ／持続可能な開発目標)は、より良い未来を持続させていくために、
国連加盟国193カ国が世界的な課題の解決に向けて掲げた17の開発目標です。
それらの目標は、法政大学憲章で掲げた本学のミッション・ビジョンと共鳴するものであり、
本学でも教育研究や社会貢献を通じてSDGsへの取り組みを進めてきました。
この特集では、これまで手掛けてきたSDGs関連の取り組みや、今後の展望などについて紹介します。



法政大学総長
廣瀬克哉

「実践知」とは、予測可能性が揺らぐ現代社会の中で、現場での実践や背景、専門性の異なる人々との血の通った連携を通じて、ここにはない新たな知見を生み出し、答えのない問題に立ち向かうために必要な知性の在り方です。

本学はこの「実践知」を学生一人ひとりに培うため、今後もSDGs達成のための教育・研究を進めるとともに、学外との連携による多様なプロジェクトを精力的に展開します。さまざまな方々との交流の中で、答えのない社会的問題に、新たな解を生み出し得る人材の育成を目指していきます。

法政大学総長
廣瀬克哉

本学は建学以来、「自由と進歩」を精神とし、持続可能な社会の構築と、それに資する人材の育成を重要な使命としてきました。

法政大学憲章「自由を生き抜く実践知」として受け継いだ本学の精神および使命は、2015年に時と志を同じくして国連に採択されたSDGs(持続可能な開発目標)と関連づけることで具体化し、使命達成を目指しています。

「実践知」とは、予測可能性が揺らぐ現代社会の中で、現場での実践や背景、専門性の異なる人々との血の通った連携を通じて、ここにはない新たな知見を生み出し、答えのない問題に立ち向かうために必要な知性の在り方です。

本学はこの「実践知」を学生一人ひとりに培うため、今後もSDGs達成のための教育・研究を進めるとともに、学外との連携による多様なプロジェクトを精力的に展開します。さまざまな方々との交流の中で、答えのない社会的問題に、新たな解を生み出し得る人材の育成を目指していきます。

HOSEI EYE

法政の「いま」をお伝えします。



Session1では、キャリアデザイン学部で移民研究・多文化社会論を専門とする加藤丈太郎兼任講師とミャンマーロヒンギャ民族出身で、現在は日本国籍を持つ長谷川留理華氏をゲストに迎え、「難民を身近に感じる」をテーマとしたパネルディスカッションを開催。移民問題について語りあった

法政グローバルデイ2021

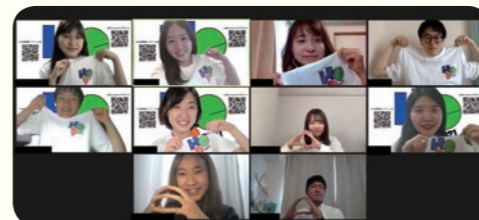


5月9日(日)に「法政グローバルデイ2021」をオンラインで開催しました。

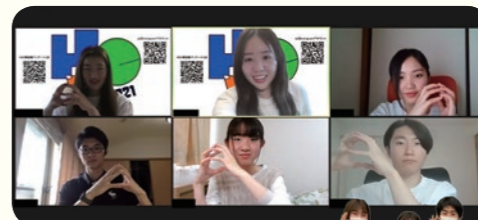
本イベントは、本学のスーパーグローバル大学等事業の一環として、国際協力・国際交流への興味を喚起することを目的として、企画から運営まで、学生の実行委員が中心となって取り組んでいます。併せて、国際的な取り組みに積極的に参加した学生を表彰する「グローバルポイント制度」の2020年度表彰式やグローバル教育センターのプログラムも紹介しています。

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、初のオンライン開催となりました。事前予約制の導入など新しい試みも取り入れ、スタッフによる事前リハーサルでは感染予防に注意しながら準備を整えました。

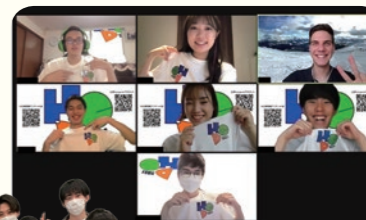
イベント当日は、学内外合わせて約120人の方々が参加。ワークショップでは、参加者と学生スタッフとの間で交流を深めることができました。詳細はグローバル教育センターのウェブサイトにて公開しています。



Session2では、学生が企画したワークショップなどを実施。ワークショップ「グローバルクイズ大会」では、来場者も国際クイズに挑戦



ワークショップ「グローバル×会話」では、国際交流を疑似体験



ワークショップ「Play with English」。海外からのゲスト参加者とゲームやディスカッションを楽しんだ

グローバル教育センター ウェブサイト
<https://www.global.hosei.ac.jp/>

HOSEI 6・7 Contents

communication magazine 2021

- 02 HOSEI EYE 法政グローバルデイ2021
- 03 特集 法政大学とSDGs
- 08 最先端の分野がそろう大学院
- 12 卒業生インタビュー
「農業の面白さや可能性を発信し、農場とこの地域を次世代へつなげたい」
えづらファーム 代表 江面 暁人 さん
- 14 ESSAY
「アナログとデジタルをつなぐ数学」
理工学部経営システム工学科 教授 磯島 伸
- 16 HOSEI PHRONESIS VOL.37
「スポーツマネジメントを究めて スポーツの発展に寄与する」
スポーツ健康学部スポーツ健康学科 准教授 吉田 政幸
- 18 MY CAMPUS, MY LIFE
情報科学部コンピュータ科学科コンピュータ基礎分野基盤ソフトウェア研究室
(日高宗一郎教授研究室)／K-POPダンスサークル「chumuly」
- 20 Message 「Well-being ～幸せな世界～」
現代福祉学部福祉コミュニティ学科4年 成澤 あゆみ さん
- 21 THE SCENE VOL.129 陸上ホッケー部
- 22 後援会だより「2021年度後援会会長 就任あいさつ」「会長退任あいさつ」など
- 26 HOSEI ミュージアム VOL.019
「法政テニスの軌跡～法政初のデビスカップ代表・中野文照～」
- 27 校友会だより
- 28 HOSEI TOPICS
- 30 2020年度自由を生き抜く実践知大賞 3
- 31 BOOKS

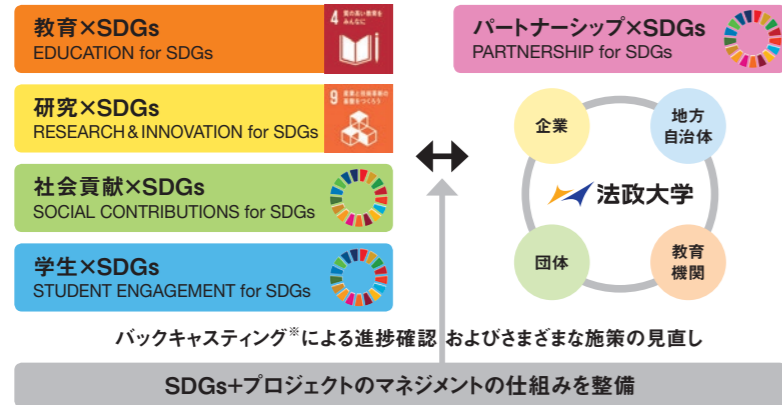
COVER 多摩キャンパス 撮影：平野太呂

広大な敷地の多摩キャンパスでは、キャンパス内を移動するための循環バスが運行されており、学生の間では「青バス」と呼ばれ親しまれています。また、キャンパス一帯は豊かな自然に囲まれていて、5月から6月は新緑が鮮やかな季節です。

これからの法政大学とSDGs

環境や自然資源の保全、公平な教育、技術革新の拡大——。世界に山積するさまざまな社会課題の解決に向けて、国連加盟国共通の目標として定められたSDGs（持続可能な開発目標）。法政大学憲章「自由を生き抜く実践知」にて「地球社会の課題解決に務めることが使命」と明示している本学では、SDGsに賛同し、独自の貢献をプラスするという意味を込めて「法政大学SDGs+プロジェクト」を発足し、取り組みを加速しています。その概要について、法政大学SDGs+プロジェクトリーダーを務める川久保俊教授にお話を伺いました。

■ 図2 法政大学SDGs+プロジェクト 2030アジェンダの概要



^{*}未来の在るべき姿から逆算して、現状すべきことを発見する手法。

（ゴール）、具体的な行動方針（ターゲット）、進捗状況を数値化するため
の基準と目標値（インディケータ）
を明確に定めています。
実効性を高めるため、毎年度、ア
ジェンダの進捗を確認し、効果を検証
します。その結果は随時、本学ウェブ
サイトのSDGsページにて公表して
いく予定です。

法政大学SDGs+プロジェクトリーダー
川久保 俊

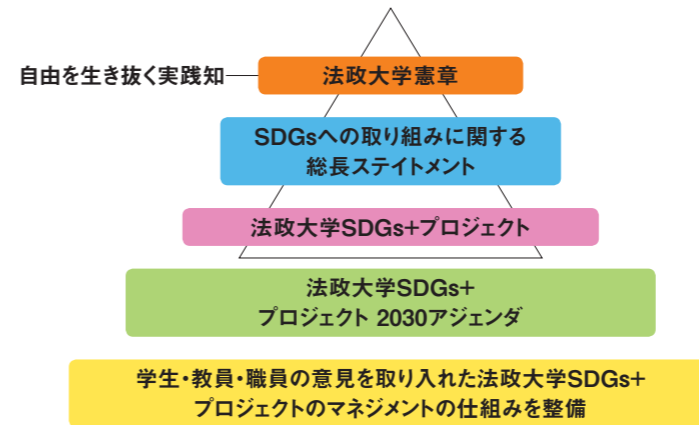
（デザイン工学部建築学科 教授）

Kawakubo Shun

1985年長崎県生まれ。慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科卒業、同大学院理工学研究科開放環境科学専攻博士後期課程修了、博士（工学）。2013年本学デザイン工学部建築学科助教に就任、2016年専任講師を経て、2017年から准教授、2021年より教授、現在に至る。2019年から本学SDGs+プロジェクトリーダー。環境工学の視点から未来のあるべき建築・都市像を探求中。文部科学大臣表彰若手科学者賞、グリーン購入大賞・環境大臣賞、建築学会奨励賞、日本都市計画学会論文奨励賞、山田一字賞など多数受賞。



■ 図1 SDGs+プロジェクトをマネジメントする仕組み



SDGsへの取り組みを通して
持続可能な未来の構築に貢献する
法政大学は、社会への約束として法
政大学憲章「自由を生き抜く実践知」
を掲げ、「地球社会の課題解決」「持続
可能な未来への貢献」に務めてきまし
た。これは、国連で採択された2030
アジェンダとそこに所収されている
SDGsと軌を一にするものです。
さらに、本学では2018年12月に
当時の田中優子総長（現名誉教授）が
SDGsへの取り組みに関する「総長ス
テートメント（声明）」を発表。法政大

学ならではの貢献を加えてSDGsに
取り組んでいくという意味を込めた
「法政大学SDGs+（プラス）プロ
ジェクト」を発足させました。
当時は、学内でも学外でもSDGs
の認知度は低く、学生と教職員に向け
て「SDGsとは何か」を周知しなが
ら地道に活動を続けてきました。
2020年から、世界はSDGs達
成の本格化に向けた「行動の10年
（Decade of Action）」に突入
目標達成に向けて一人一人の行動が求
められています。
この動きに伴い、本学でもSDGs
の取り組みを現実的な行動に結び付け
るために「法政大学SDGs+プロ
ジェクト2030アジェンダ（行動計
画）」を策定。教職員、学生の意見を
取り入れたマネジメントの仕組みに
よって、進捗状況や施策の実効性が検
証・検討されるよう、整備を進めてい
ます（図1参照）。
このアジェンダの特徴は、本学が重
点を置く独自目標と指標が明確に打ち
出されていることです（図2参照）。
主軸となるのは「教育」と「研究」
「社会貢献」、SDGsに興味を持って
自発的に行動する「学生」の支援、そ
して自治体や企業などと連携して取り
組みを進めるための「パートナーシッ
プ」の構築です。それぞれに達成目標

SDGsを原動力として
学生のキャリアパス形成を支援
法政大学のSDGsは、学生が主役
だと考えています。SDGsで定めら
れている17のゴールは、2030年を
ひと区切りとした通過点にすぎません。
持続可能な未来に向けて、社会的な課
題解決に取り組む日々はその先も続き
ます。SDGsの先の世界で力を発揮
するために、学生のうちに、自身の可
能性や能力を磨いてほしいのです。
そのためのSDGs教育として、3
キャンパスに15学部を擁する総合大学
の強みを生かし、「法政大学SDGs
サテライトプログラム」を用意
しています。全学部から提供されたS
DGs科目群から選択して学べるプロ
グラムです（7ページ参照）。学部を
問わずSDGsの知識を幅広く会得し
たことを大学として認定できるように、
修了証を発行しています。
さらに、主体的にSDGs達成に取
り組んでいる学生組織SAASH
（SDG Action Students
of HOSEI）を大学公認で支援、
また、関西大学との共同企画としてS
DGsアクションプランコンテストな
どを実施しています（6ページ参照）。
SDGs達成には外部との連携が欠
かせないので、パートナーシップの形

成にも積極的に取り組んでいます。
2019年から毎年開催している「H
OSEI SDGs WEEK」では、
地方自治体、企業、他大学の協力の下、
セミナーやトークイベントなどを盛り
込んだプログラムを実施。二つの地方
自治体（下表参照）とは「SDGs推進
連携協定」を締結しています。
SDGsは、今現在、全世界が集中
して取り組んでいるだけに、今後の学
生のキャリアパス形成にも影響を及ぼ
すはず。進路を検討するに当たっ
て、SDGsに向き合う姿勢から企業
の持続的成長性を推し量る、そうした
視点を持つこともできるでしょう。す
でに、未来を変革する種はまかれてい
ます。機運を逃すことなく、その種を
育ててほしいと願っています。
法政大学は、SDGsを原動力に成
長する学生の後押しができるよう、全
学体制で取り組んでいきます。

【法政大学のSDGs】

- 2016年 「法政大学憲章」を制定
「ダイバーシティ宣言」を
発表
- 2018年 「総長ステートメント」
を発表
※前総長である田中優子名誉
教授が宣言
- 2019年 「法政大学SDGs+プロ
ジェクト」発足
SDGs未来都市とSDGs
推進連携協定を締結
北海道・下川町
岩手県・陸前高田市
- 2020年 「法政大学SDGs+プロ
ジェクト2030アジェ
ンダ」を策定
行動の10年「Decade
of Action」に突入し
たことを受けて取り組み
をさらに加速

【SDGsとは】



世界的な社会課題の解決に向けて、2015
年9月の国連サミットで採択された17の指標。
「Sustainable Development Goals（持続
可能な開発目標）」の略称。



法政大学 for SDGs
<https://www.hosei.ac.jp/sdgs/>



法政大学SDGs+
プロジェクト2030アジェンダ
[https://www.hosei.ac.jp/application/
files/3516/0645/8143/SDGs_2030_1120.pdf](https://www.hosei.ac.jp/application/files/3516/0645/8143/SDGs_2030_1120.pdf)

ゴール1 SDGs人材育成のためのあらゆるプログラムを設置し、SDGs人材を世界中に輩出する。

SDGsサティフィケート プログラムとは

法政大学では、SDGsオンライン解説動画を視聴し、SDGsに関する科目で構成されている「SDGs科目群」から所定の単位を取得することで「修了証(サティフィケート)」を授与しています。

2021年4月1日時点で、全学部から計737科目がSDGs科目群として提供されています。所属する学部の科目だけではなく、他学部公開されている科目も多く、幅広い分野の科目を履修できるのも、このプログラムの大きな特徴の一つです。



SDGsサティフィケートプログラム修了証

「SDGsとは無関係」という人は、一人もいません。法政大学では、「誰一人取り残さない」ために、全ての人々がSDGs達成に貢献できるようになるための人材育成として、このプログラムを用意しています。

SDGsサティフィケート取得 学生の声



GIS(グローバル教養学部)
4年
佐藤 絢香さん

「知ること」から始めよう

SDGsサティフィケートの取得を通して学んだことは、課題解決は一筋縄ではいかないこと。1ゴールだけの解決を目指す、どこかに矛盾が生まれてしまいます。17のゴールが提示されているからこそ、多様な方向からアプローチする重要性に気付かされ、同時に多くの協力が必要であることも知りました。

SDGsにあまり興味がない方でも、まずは「知ること」から始めてみましょう。学内には、SDGsを自分の言葉にできるよう、いろいろな授業が開講されているので、興味のあるもの一つでも受講してみることがあなたの扉を開ききっかけになるかもしれません。



大規模自然災害発生時の大学キャンパスでの避難生活のデザインワーク

多様なフィールドワーク科目

2019年度より、学内外との共同企画で、全学部全学科の学生が受講できる「課題解決型フィールドワーク for SDGs」を正課授業(一部正課外)として開講しています。

<これまでの開講実績例>

- ・大規模自然災害発生時の大学キャンパスでの避難生活のデザインワーク
- ・身体的弱者の視点からグリーンツーリズムおよび農村民宿の多様性を広げる
- ・日越大学・法政大学共同ベトナムSDGsフィールドスタディ

パートナーシップ×SDGs PARTNERSHIP for SDGs

「法政大学 SDGs+プロジェクト2030アジェンダ」では、法政大学独自のゴールを設定し、各ゴールはパートナー6~7ページでは、教育、研究、社会貢献、できた具体的な事柄を取り上げています。

法政大学 SDGs+プロジェクト2030アジェンダ」では、法政大学 SDGs+プロジェクト独自のゴールを設定し、各ゴールはパートナー6~7ページでは、教育、研究、社会貢献、できた具体的な事柄を取り上げています。

社会貢献×SDGs SOCIAL CONTRIBUTIONS for SDGs



ゴール3 社会との接続を強化し、誰一人取り残さない社会を構築する。

陸前高田市との SDGsワークショップ

法政大学と岩手県陸前高田市は「SDGs推進連携協定」に基づき、2020年に「SDGsワークショップ」を実施。本ワークショップでは、約3カ月にわたり学生チームと市内の四つの事業者が一緒になって、SDGsの課題解決に向けた提案を考えました。

学生にとっては、事業者の方と一緒に取り組む経験を通して、社会に貢献するために必要な構えや思考、行動を学ぶ貴重な機会となりました。一方、学生が関わることでSDGsのアイデアが広がり、事業者側が形にすることが難しいと感じていたことをアクションにつなげて実現できる可能性を見いだす機会となりました。

法政大学は、今後も陸前高田市をはじめ、さまざまな自治体や企業との連携を通じて社会とのつながりを強化し、誰一人取り残さない社会の構築を進めていきます。

<学生が提案したSDGsプラン>

- ◆村上製材所×チームモッキー
里山復活のため、キャンプ場、自然体験、森のアートなど「みんなが行きたくなる山」を考案
- ◆(有)橋勝商店×チームはしかつ
陸前高田市ならではの循環型農業体験学習、脱プラパートナーシップ、リボンペジタブルを提案
- ◆あすなろホーム×チームあすなろ
伊東文具店と連携したブックカフェ、障がい者アートを活用したブックカバー製作を提案
- ◆伊東文具店×チームがんばっぺし
文具交換コーナー、障がい者アートを活用したブックカバー、法大生とコラボした新聞発行を提案

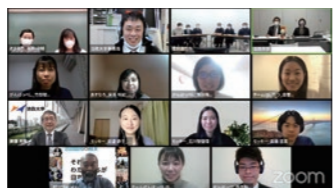
SDGsワークショップを 体験して



法学部政治学科2年
中越 百合子さん

自分ごととして捉えられるように

ワークショップでは、学生が主体的にアイデアを出して進めるため、柔軟な発想が求められる点に難しさを感じました。手探りの状態でしたが「障がいのあるなしにかかわらず対等に付き合えるようにしたい」という事業者さんのニーズに応えるため、チームの枠にとらわれずに色々な方に声をかけることを心掛けました。その過程で、事業者さんのことを自分ごととして捉えられるようになったように感じています。自分の考えを簡潔に伝えることを目標に、これからも取り組んでいきたいと思っています。



2021年3月12日開催 SDGs ワークショップ最終報告会

事業者からの声



(株)山十 伊東文具店
伊東 亜希子さん

自分たちにできることに気付けた

始める前は、書店の立場でできることはSDGs関連本のコーナーを作るくらいか思い浮かびませんでした。ワークショップを通じて、「私たちができることはこんなにあるのだ」と気付くことができました。少しずつ形にしながら、実現に向けて動き出したいと思っています。ワークショップはオンラインだけでしたが、学生さんから提案があるたびにワクワクして、楽しかったです。陸前高田市にも遊びにきてください。

学生とのコラボで作成した「伊東文具店だより」。消費者の目線からエコ文具などを紹介している。陸前高田市の伊東文具店で配布。

ゴール2 SDGs達成に貢献する研究を推進し、社会に発信する。

SDGsと研究の関わり

理工学部機械工学科
吉田 一朗教授



SDGs (Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標) という名称からも分かるように、SDGsの達成には研究・開発が欠かせません。そのため、法政大学における文系・理系の研究活動では、以前からSDGsに挙げられるような課題の解決を目指す研究が数多く実施されてきました。

例えば、機械工学科では「PBL (Project Based Learning)」という授業科目でSDGsを取り上げて、社会や世界が直面する課題の解決を意識付け、『学生自ら社会や身の回りの課題を議論・調査・発見し、課題設定する。その課題の解決策を考え、そのアイデアを実行により具現化する』という具体的な研究開発活動を段階的に実施しています。

これらの研究活動は、SDGsの課題解決に貢献するだけでなく、学生の主体性、自発性や自律的に学ぶ力を強力に育成し、他者や社会への貢献心、コミュニケーション能力、自ら考える力をも育みます。さらに、SDGsへの貢献を目指す企業や他研究機関との共同研究にもつながっています。



理系学部研究室ガイド

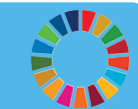
研究成果は学内外に広く発信

研究開発により得られた成果を社会に発信・還元することは、SDGsの推進の上でも非常に重要だと考えています。研究成果の発信の例としては、「法政科学技術フォーラム」や「理系学部研究室ガイド」などが挙げられます。



SDGsへの貢献を目指す研究活動の実践例: PBL(左)と国際会議論文の例(右)

学生×SDGs STUDENT ENGAGEMENT for SDGs



ゴール4 学生があらゆる場所で活躍できるフィールドを提供する。

関西大学×法政大学 SDGsアクションプランコンテスト*

SDGsアクションプランコンテストに 参加してみよう

社会をつくる意識を共有

「ベトナム・フエに暮らす約3万人の障害者が生産する竹かご」と「廃棄予定の越前和紙(日本三大和紙の一つ)」を組み合わせたことを提案しました。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、障害のある彼らが十分な収入を確保する就労機会はさらに減りました。最終的に、付加価値を付けたアップサイクルでの竹かご生産の提案が採択されましたが、現地では今も厳しい状況が続いています。私たちのチャレンジは今後も続きます。

SDGs アクションプランコンテストは、私たち学生がより良い社会をつくっていくという意識を共有する場となりました。ぜひ、後輩にも積極的にこういった活動に参加してほしいと思います。(RSチルドレン所属 現代福祉学部福祉コミュニティ学科4年 平井 喬)

SASHの活動

SASH所属
法学部国際政治学科2年
森 響子さん



私たちSASH (SDGs Action Students of HOSEI、サッシュ)は、SDGs達成のための活動を行っている大学公認の学生組織です。これまで、アパレル産業が抱える環境や人権問題、生理など、さまざまなテーマについてのオンライン勉強



SASH プログラムポスター

会を開催する他、関西大学の学生との合同チームKLASH (クラッシュ)を発足するなど、活動の

幅を少しずつ広げています。活動を通じて、多くの人たちに知ってもらおうことの大切さ、さまざまな人たちとつながることの楽しさ、やりがいを感じる事ができました。SDGsが抱える問題は、すぐには解決できませんが、一人一人に社会を良くする力があり、一人一人の努力で社会は良くなってきています。みんながSDGsに主体的に取り組めるように、これからも活動していきたいと思っています。



SDGs アクションプランコンテスト: 「持続可能な社会」について主体的に考え、SDGs実現に向けての具体的な提案を行う学生を顕彰することを目的としたコンテスト。連携協定を結ぶ関西大学との共催で実施している。



SDGs アクションプランコンテストで最優秀賞を受賞した「RSチルドレン」



RSチルドレン活動の様子

最先端の分野がそろう大学院

本学は大学院を有し、さらに学びを深めたい人への教育指導や研究支援、就職サポートなどの体制を整えています。大学院で学ぶことのできる内容やサポート体制、進学するために必要な事項などを紹介します。

研究で得た力を社会へ

私たちは今、モノではなく、知識を集約することにより、複雑で高度化された社会的課題を解決する「知識集約型社会」を生きています。これからの社会でとりわけ重要とされる課題には、グローバルな観点でいえば、SDGs（持続可能な開発目標）の達成が挙げられ、国内に目を向ければ、少子高齢化、地方創生などへの対応が挙げられます。これらはいずれも問題を構成する要素が複雑に絡み合い、一つの知だけで解決することは不可能であるといつてよいでしょう。

社会を取り巻くこれらの課題を解決する存在として、「知のプロフェッショナル」が求められています。「知のプロフェッショナル」とは、高度な専門的知識と倫理観を備え、新たな知と価値を創造し、グローバルに活躍できる存在を指し、大学院の教育課程で養成されるべき

人物像として位置付けられています（平成27年文部科学省中央教育審議会大学分科会答申「未来を牽引する大学院教育改革」）。

理系は除きますが、永らく日本では学生は学部を卒業すると、そのまま就職する慣行が続いてきました。大学院は研究者を目指すための機関と見なされてきたのです。しかし、海外では、修士・博士の学位を持つ人が、官界でも産業界でも指導的な地位に就くことが多く見られます。それは大学院の修了者が、研究を通じて高い思考力と粘り強い対応力を身に付けた人物として、正当に評価されているからです。その意味で日本ははるかに遅れています。ですが、「知識集約型社会」の中にあつて、これからの日本でも大学院修了者が社会を主導する存在になってゆかなくてはなりません。

本学大学院には15研究科、31専攻、3

インスティテュートが設けられ、さらに

専門職大学院には2研究科が設けられています。学部時代の学びを深化させることができるだけでなく、他研究科や専攻の科目の履修を通じて、総合的な知を養うこともできます。また、国際日本学インスティテュートや公共政策研究科のように学際性の強いコースや、総合理工学インスティテュート（IIST）のように英語による学位プログラムも開設されています。

大学院では学部時代よりも濃い密度で、教員とともに最先端の研究を進めることができます。そこでは、従来の研究が明らかにできなかった問題を皆さん自身の手で解明し、社会や学界へ投げかけてゆくこともできます。研究の世界で体験した喜びを力に換え、皆さんも社会のあらゆる場所で活躍する「知のプロフェッショナル」となりません。

大学院での学びから得たこと

本学大学院に在籍または修了された4人の先輩から、大学院に進学するに当たったの思いや大学院での体験を話してもらいました。

実践的な学びを得られる場



人間社会研究科臨床心理学専攻 修士2年
永島 瑠奈
現代福祉学部臨床心理学科 卒業

進 学や就職といった人生の重大な岐路に立った時、心身のバランスを崩してしまう知人が多かったことが、大学院で青年期の進路選択に関わる研究をしたいと考えたきっかけでした。また、学内進学者には入学金の免除制度があり、そちらも本専攻への進学を決意したポイントでした。

臨床心理学専攻では、修士課程1年次から学部生を対象としたカウンセリングや各種心理検査の練習などを行い、専門的知識を会得していくことが可能です。2年次には多摩キャンパス内の臨床心理相談室や外部医療機関に伺い、実際にクライアントの方と接しながら実践的な学びを深めていきます。

加えて、全体的にアットホームで温かい雰囲気があり、疑問が生じた際には学派や研究室を越えて多様な分野に精通した先生方からご指導いただける点も、本専攻の大きな魅力だと感じています。

ぜひ緑豊かな多摩キャンパスで、同じ道を志す仲間と共に臨床心理学の学びを深めていきましょう。

さまざまな経験を積める場



理工学研究科システム理工学専攻 修士1年
佐藤 利鷹理
理工学部経営システム工学科 卒業

学 部在学中に休学して仕事に就くなど、一般的とは言えないキャリアを経た大学生活を通して、さまざまな経験を積むことができました。復学した後、そのまま大学院へ進学することを決めました。

学部生の時からご指導いただいている木村光宏教授にはとてもお世話になりました。新しい課題に取り組む姿勢や、多方面に興味を持つことの重要性など、ご指導いただいたことは業務にも自身の考え方にも生きています。

本学大学院は、論文や書籍を自由に閲覧できる他、奨学金制度や研究室ごとの費用の割当など、研究をサポートする仕組みが充実しています。また、ERP（English Reinforcement Program＝英語強化プログラム）など、グローバルに活躍するためのサポートも充実しているので、私にとっては、望みを叶える最良の選択肢でした。

皆さんも、ご自身の可能性を広げ、経験を積むチャンスとして大学院への進学を検討してみてください。

アーキビストとしての原点



人文科学研究科史学専攻 修士課程修了
小野 清楓
文学部史学科 卒業

修 士課程への進学を決めた理由は、将来学芸員として活躍するために、より専門的な知識と経験を積みたいと考えたからです。学部生の頃からお世話になっている教授に引き続き指導いただけること、学内進学者には入学金の免除制度があることから法政大学大学院に進学しました。

人文科学研究科史学専攻は社会人学生も多く、授業は夕方から夜にかけての時間が中心でした。そのため昼間は博物館でアルバイトをしたり、研究を進めたりと効率よく時間を使い、さまざまな経験を積むことができたように思います。在学中は、史学専攻に設置されている「アーキビスト養成プログラム」（記録管理の専門家を養成するプログラム）を受講し、歴史学以外の専門知識を深めることもできました。

こうした経験から、現在は見習いアーキビストとして企業や学校、病院などを対象に、さまざまな業種の資料整理や資料管理、活用の提案などを手掛ける仕事をしています。大学院での学びや経験は、将来の自分を形つくる大切な財産であると考えています。

自らのキャリアをイノベーション



イノベーション・マネジメント研究科
イノベーション・マネジメント専攻（1年制）修了
新家 彰

社 会人を30年経験してから大学院に入学しました。中小企業診断士の資格取得と卒業後、独立診断士として活動できるように、体系的な経営学と実際の経営を学ぶことが目的でした。

専攻したイノベーション・マネジメント研究科MBA特別プログラム（中小企業診断士養成課程）は、1年間で卒業する特殊なコースです。同じ目的を持った中小企業診断士を目指す同級生と講義、議論、実習、研究を毎日行い、大変有意義な時間を過ごすことができました。在学中に研究した修士論文は優秀賞を受賞し、自分自身にとって大きな自信となりました。

卒業後は中小企業診断士として独立して事業を行っています。初めての独立は多少不安でしたが、先生方のアドバイスや卒業生のつながりにより、無事にスタートをすることができました。新しい人間関係を築けることは大学院の大きなメリットであると思います。

大学院はさまざまな年代とキャリアを持った同級生と一緒に勉強します。この経験は自らの視野を広げ、新たなことにチャレンジするきっかけになると考えます。

（ 大学院への進学に興味を持ったら ）

学部から大学院の研究科へと進学を望む学生向けに「学内者向け入試」「学内推薦」など、一般の受験者とは別枠の優遇入試制度を設けている研究科もあります（11ページ右欄参照）。詳細は各大学院の窓口までお問い合わせください。



進学相談会などの情報について



法政大学常務理事・副学長
（大学院担当）
文学部教授
小秋元 段
Koakimoto Dan

1968年生まれ。1990年慶應義塾大学文学部卒業、1995年同大学院文学研究科後期博士課程単位取得退学。博士（文学）。1998年法政大学文学部専任講師、2009年教授。2017年文学部長（2021年3月まで）。2021年より常務理事、副学長。専攻は日本中世文学。著書に『太平記・梅松論の研究』（汲古書院、2005年）、『増補太平記と古活字版の時代』（新典社、2018年）ほか。

法政大学大学院の特色

最先端の分野がそろう多彩な知の空間

多様な研究科を 設置

15研究科、31専攻、3インスティテュートを設置しています。（専門職大学院は2研究科）

第一線で活躍する 教授陣による少人数教育

授業のほとんどは少人数のゼミ形式で、自分の研究課題に適した指導教授について論文指導を受けられます。

教育の グローバル化を推進

国際的な教育・研究水準の向上を目指し、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる人材の育成を図っています。

研究科・専攻一覧

大学院

分野	研究科名	専攻名	概要	学内向け/民間 学内推薦	
人文科学分野	人文科学研究科	哲学専攻	古代ギリシア哲学、近代ヨーロッパ哲学、現代哲学、論理学などにより、西洋哲学を中心に教育研究を進めています。		
		日本文学専攻	古代から近代まで各時代の文学、言語、芸能を探究。文芸批評、中国・沖縄文学などの関連科目を幅広く配置しています。		
		英文学専攻	英米文学、演劇、英語学、言語科学などの専門教育を行います。学内または提携大学院の豊富な科目も選択できます。	○	
		史学専攻	日本・東洋・西洋史の3分野の広範な授業を開講。伝統的な研究方法を重んじながら、最前線の研究成果も取り入れています。		
		地理学専攻	自然地理と人文地理の2本柱で、幅広く複合的な領域をカバーします。どちらかに重心を置きつつ、個別の研究を進めます。	○	
		心理学専攻	知覚・睡眠・発達・発達臨床・言語・教育・行動分析・犯罪・社会・記憶・学習・音声学といった多様な領域を指導します。	○	
		国際日本学インスティテュート	人文科学研究科を横断する形で設置・運営され、専攻にとられない多彩な授業が展開されています。		
	国際文化研究科	国際文化専攻	文化の「国際性」と「情報性」を研究し、インターカルチュラル・コミュニケーションを探究します。	○	
	社会科学分野	経済学研究科	経済学専攻	経済学、統計学、経済史などの基本科目から経済地理や社会政策など幅広く選択でき、上級レベルの経済理論（ミクロ・マクロ）も開講しています。	○
		法学研究科	法律学専攻	現代社会の多様な問題を法的に分析し、法的な思考過程を経て最善の解答を生み出す能力を養成します。	○
政治学研究科		政治学専攻	オーソドックスな政治学から、都市政策、フェミニズムやジェンダー論など新領域の独創的な科目まで幅広く解説します。	○	
		国際政治学専攻	時代の要請に応える、世界政治、国際開発、地球環境、平和構築、人間の安全保障などの諸分野の研究教育が充実しています。	○	
社会学研究科		社会学専攻	日本だけでなく、世界で問われている21世紀の社会的課題を認識し解明するために、「人間論的関心を柱にした社会問題の社会学」を中心に、隣接する諸科目を配して研究活動を行います。	○	
経営学研究科		経営学専攻	経営の基礎から応用までの理論的なアプローチに加え、現実の企業活動や社会現象を実証的に分析するためのさまざまな手法が学べます。	○	
人間社会研究科		福祉社会専攻	「福祉」や「まちづくり」に関する高度職業人（ソーシャルワーカー、政策立案者など）、研究者の養成を目的としています。	○	
		臨床心理学専攻	心理臨床の分野で活躍する高度職業人（公認心理師、臨床心理士）と、臨床心理学の実践と科学に関わる研究者の養成を目的としています。	○	
		人間福祉専攻	次代の人間福祉を総合的に実現するための理論的かつ実践的研究者を養成することを目的としています。		
政策創造研究科		政策創造専攻	豊かで持続可能な地域社会を実現する革新的な政策を研究・デザインし、それらを実現できる人材を育成します。		
公共政策研究科		公共政策学専攻	グローバル化・知識基盤社会、人口減少社会における総合的な政策提言能力を身に付けた高度職業人、研究者を養成します。		
		サステナビリティ学専攻	持続可能な循環型社会の構築に貢献できる人材を養成します。		
キャリアデザイン学研究科		キャリアデザイン学専攻	最先端のキャリアデザイン学分野を体系的に学べる日本で初めての研究科です。		
連帯社会インスティテュート		連帯社会インスティテュート	新しい地域社会や国づくりの発展に貢献できる「新しい公共」の担い手を養成します。		
スポーツ健康学研究科	スポーツ健康学専攻	人文社会科学から自然科学まで、多面的なスポーツ・健康について教育研究を進めています。	○		
自然科学分野	情報科学研究科	情報科学専攻	ITを通じ、情報化社会、知識社会と呼ばれる、これからの新しい時代を築く人材を養成します。	○	
	デザイン工学研究科	建築学専攻	建築に関わる7つの項目の兼業や能力を養い、建築と都市に関わる専門職業人、教育・指導者、研究者を養成します。	○	
		都市環境デザイン工学専攻	社会基盤などを設計・建設・整備する手法を習得し、環境を保全・再生していくことのできる技術者を養成します。	○	
		システムデザイン専攻	さまざまな側面から総合的にユーザビリティを追究。複雑な社会に存在する諸問題に対応できる技術者や研究者を育成します。	○	
	理工学研究科	機械工学専攻	材料力学、熱力学、水力学などの専門科目や、機能性材料、宇宙工学、環境エネルギー工学など先端の研究指導を行います。	○	
		電気電子工学専攻	電気電子工学分野に重点を置き、最新設備を利用しながら現代の科学技術を支える先端技術の基礎から応用まで研究します。	○	
		応用情報工学専攻	ICT、クラウド、ユビキタスネットワークなど高度情報化社会を支える実用的かつ高度な最先端システムを研究分野にしています。	○	
		システム理工学専攻 創生科学系	理工学の基幹をなす物理科学、情報学の社会基盤である知能科学、融合領域の人間科学について研究を行います。	○	
		システム理工学専攻 経営システム系	数理、人間を要素として、これらをつなぎ、付加価値の高いシステム構築法を研究します。	○	
		応用化学専攻	幅広い産業界において化学の専門的な知識を生かして、持続的社会的構築に貢献できる人材養成を行います。	○	
		生命機能学専攻	生命機能学と植物医学の2つの領域、ゲノム、タンパク質、細胞、生命システム、基盤植物医科、実践植物医科の6分野について研究します。	○	
	総合理工学インスティテュート	総合理工学インスティテュート(IIST)	グローバル社会において総合理工学分野のリーダーとして活躍することができる人材を養成します。		

専門職大学院

研究科名	専攻名	概要
法務研究科(法科大学院)	法務専攻	現代社会に生じる多様な法律問題に対して適正かつ迅速に対応できる、創造的応用力を備えた市民のための法曹を養成します。
イノベーション・マネジメント研究科	イノベーション・マネジメント専攻	基礎・専門・応用に分かれた高密度カリキュラムと、実践力を備え、革新を起こすことができるビジネスのプロフェッショナルを育てます。

問い合わせ先

【大学院】 <https://www.hosei.ac.jp/gs/>

【市ヶ谷キャンパス】
人文科学研究科、国際文化研究科、経済学研究科、法学研究科、政治学研究科、社会学研究科、経営学研究科、公共政策研究科、キャリアデザイン学研究科、連帯社会インスティテュート

●**大学院事務部 大学院課**
TEL: 03-5228-0551 E-mail: i.hgs@ml.hosei.ac.jp

政策創造研究科
●**大学院事務部 大学院課 政策創造研究科担当**
TEL: 03-3264-6630 E-mail: rpd-j@hosei.ac.jp

デザイン工学研究科
●**大学院事務部 大学院課 デザイン工学研究科担当**
TEL: 03-5228-1429 E-mail: jsd@hosei.ac.jp

【多摩キャンパス】
人間社会研究科
●**多摩事務部 大学院課 人間社会研究科担当**
TEL: 042-783-4047 E-mail: fukushi@hosei.ac.jp

スポーツ健康学研究科
●**多摩事務部 大学院課 スポーツ健康学研究科担当**
TEL: 042-783-3003 E-mail: sports@hosei.ac.jp

【小金井キャンパス】
情報科学研究科、理工学研究科、総合理工学インスティテュート (IIST)
●**小金井事務部 大学院課**
TEL: 042-387-6014 E-mail: hge@hosei.ac.jp

【専門職大学院】 https://www.hosei.ac.jp/kyoiku_kenkyu/senmon/index.html

法務研究科
●**大学院事務部 専門職大学院課 法科大学院担当**
TEL: 03-3264-9039

イノベーション・マネジメント研究科
●**大学院事務部 専門職大学院課 イノベーション・マネジメント専攻担当**
TEL: 03-3264-4341

学費と奨学金

■学費

- ①入学金 本学出身者は無料(政策創造研究科 修士課程は除く)。
②授業料 各種助成金・奨学金制度を用意しています(下記参照)。

単位:円

学費一覧(年額) (2022年度予定)	人文科学・国際文化・経済学・法学・政治学・社会学・経営学・人間社会・公共政策・キャリアデザイン学研究科・連帯社会インスティテュート		スポーツ健康学研究科		情報科学・デザイン工学・理工学研究科・IIST		政策創造研究科	
	修士	博士後期	修士	博士後期	修士	博士後期	修士	博士後期
入学金	自校	—	—	—	—	—	135,000	—
	他校	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	270,000	270,000
授業料	570,000	400,000	644,800	470,000	770,000	600,000	750,000	750,000
教育充実費	80,000	60,000	100,000	100,000	100,000	100,000	135,000	135,000
実験実習費	心理学専攻	—	100,000	100,000	100,000		—	—
	臨床心理学専攻				生命機能学専攻 植物医学領域のみ	160,000		

授業料等は第一期(春学期)(4月末日まで)・第二期(秋学期)(9月末日まで)の2回に分けて納入していただくことになります。ただし、1年次(初年度)の第一期分は、入学手続き時に納入していただくことになります。
※上記のほかに専攻によって2,000～4,000円程度の諸費用が必要です。
※年間休学在籍料100,000円。ただし春学期、秋学期休学については半分(2分の1)とします。
※自校とは、本学の学部卒業生または大学院修了者を指し、他校とはその他の者を指します。
※経済学研究科修士1年制コースの授業料は860,000円。入学金、教育充実費は上表のとおりとします。
※総合理工学インスティテュート(IIST)の授業料は880,000円(修士課程)、600,000円(博士後期課程)、入学金は200,000円(修士・博士後期課程)、教育充実費は100,000円(修士・博士後期課程)、実験実習費は80,000円(修士・博士後期課程)。生命機能学専攻植物医学領域のみ140,000円)とします。
※スポーツ健康学研究科のみ授業料には昼食代が含まれています。

■修学支援、留学・研究奨励制度

大学院生の修学に対して、経済的な支援を目的とした制度を設けています。

名称	対象者(応募資格)	給付額
法政大学100周年記念大学院修士課程奨学金	修士課程在学学生(標準修業年限内)	200,000円
法政大学大学院博士後期課程研究助成金	博士後期課程在学学生(標準修業年限内)	文系研究科 320,000円 理系研究科 480,000円
法政大学大学院海外留学補助金 ※政治学研究科国際政治学専攻特別海外留学奨学金を統合して拡充	修士課程・博士後期課程在学学生	留学した大学等において履修した科目のうち、専攻が適当と認められたものは、本学大学院の課程修了に必要な単位・科目として認定。
法政大学大学院学生論文掲載料補助		上限200,000円
法政大学大学院学会等発表補助金		国内 上限30,000円 国外 上限100,000円
法政大学大学院諸外国語による論文等校閲補助		上限100,000円
法政大学大学院学生研究補助金	修士課程・博士後期課程在学学生 (市ヶ谷、多摩キャンパスの研究科)	各専攻の学生研究に要する書籍、消耗品、印刷費等の費用を補助。
法政大学大学院現地調査実施費用補助(国内・国外)		国内 上限30,000円 国外 上限70,000円
法政大学大学院優秀博士論文出版助成金	博士後期課程修了生(修了後5年以内)	上限1,000,000円

※在学生について、休学者等は除く。詳細は、入学後、募集要項をご確認ください。
※その他、学外奨励金制度として、日本学生支援機構奨学金、地方公共団体・民間財団奨学金などもあります。

キャリア形成

本学の大学院では、キャリアセンターを中心に、きめ細かいサポートを積極的に展開しています。学生が持っている資質と能力を最大限に引き出せるように、日常的な就職相談はもちろんのこと、さまざまなかたちで就職活動を支援する企画・イベントを用意しています。

【キャリアセンターの主なサポートプログラム】

- ・模擬面接
- ・学内企業説明会、学内で実施される選考会
- ・OB・OG、社会人との交流
- ・他大学合同模擬グループディスカッション

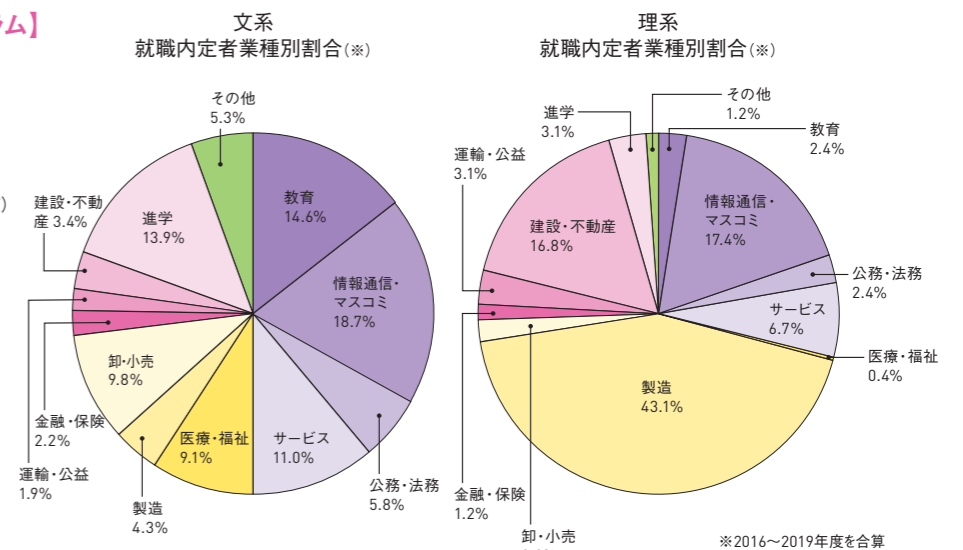
【就職】 ■就職内定の傾向(過去4年間/2016～2019年度)

文系進路情報

教育をはじめ、サービス、製造、公務員、情報通信・マスコミなど、進路・就職先業種は多種多様。各業界の有名企業で活躍する修了生も多く見られます。社会人学生の多い本学大学院には、さまざまな環境や分野で経験を積んだ方々が集まり、お互いの知識や情報、意見を交換し合うことで、より高い専門性と広い視野を養っています。

理系進路情報

過去4年間で見ると半数弱が製造業に就職。主に研究職や開発職などの専門職において、理系ならではの高度な専門知識・技術を発揮しています。





HOSEI
Graduate Interview
卒業生
インタビュー

農業の面白さや可能性を発信し、 農場とこの地域を次世代へつなげたい

えづらファーム 代表
江面 暁人さん

このページでは、法政大学憲章の「自由を生き抜く実践知」を体現している本学の卒業生を紹介していきます。

29歳で脱サラをして北海道へ渡り、42ヘクタールもの広大な農地で畑作をしながら、農家民宿なども運営している江面暁人さん。会社員の仕事も農家の仕事も、トライ&エラーの繰り返しで、考え方や進め方はまったく同じだと言います。



海外から農業体験やボランティアでえづらファームを訪れる人は、年間200人を数える。左端が江面さん。

農業のイメージを変えるため
毎年新しいことにチャレンジ

東京ドーム9個分の広さの農場で、畑作3品と呼ばれる小麦、じゃがいも、てん菜（ビート）などを作っています。植え付けも収穫も作業の大半はトラクターで行うので、一般に考えられているほどの「力仕事」ではありません。それでも、5月の植え付けや9〜10月の収穫は時間との戦いで、毎年、その時期は同時に5人ほどの住み込みボランティアの手を借りて乗り切っています。自然が相手ですから、台風でスイートコーンが全部倒されたり、豪雨でじゃがいもが畑ごと流されたりすることもありますが。だからこそ、リスクマネジメントとして畑作以外にも柱となる事業を持ち、複合的に経営していくことが大事だと考えています。現在は、農家民宿に加えて企業研修も展開する

ようになり、特に民宿は12〜2月の農閑期の収入源となっています。新規就農者として、既存の概念に縛られずに新しい風を吹き込みたい。就農して知った面白さややりがいや広がりを発信して、農業のイメージをよりプラスの方向に変えていきたい。そのためにも、毎年必ず新しいことに挑戦すると決め、それを実行し続けています。

法政の4年間で
大きく広がった視野

高校生の時に1年間カナダ留学を経験し、より多くの人と交流できる環境で自分を磨きたいと考えていたので、「スタディ・アブロード（SA）」を必修とする新設の国際文化学部に入学しました。

山根恵子教授のゼミでは、卒業制作として、異文化交流をテーマに日本の文化を紹介する映像を全員でまとめました。SAの留学地ドイツでいろいろな国の学生と交流したこと、ゼミでの



大学4年次に訪れたイタリアのベネチア

映像制作の経験は今、海外からのボランティアの受け入れや農場のウェブサイト制作などにつながっています。法政には全国各地からバックボーンや考え方の異なる学生が集まってくるので、視野を広げ、互いに切磋琢磨するには格好の場でした。同期の仲間はさまざまな分野に飛び立っていて、活躍している様子を見聞きするたびに刺激をもらっています。

ワークライフバランスを求めて
北海道へのUターンを決意

就職活動を進める中で人材系の仕事に興味を持ち、就職氷河期ではありましたが、スピード上場を果たした勢いのある会社に入社することができました。3年目にはチームのマネジメントを任せられ、毎日朝7時前に家を出て夜中に帰宅するという日々が続くうちに将来について漠然とした不安を覚えるようになってきました。仕事は面白いし、やりがいもあるけれど、この環境では自分の目指すワークライフバランスを実現できないのではないかと。

頭に浮かんだのは、高校生まで暮らしていた北海道の広大な自然と、そこで体を動かす楽しさでした。それまでは、北海道に戻るなら定年前後と考えていましたが、農業に将来性やビジネスチャンスを感ずるようになり、U

ターンでの新規就農を決意しました。北見市で1年間農業研修を受け、自分で農場を経営したいという思いが強くなりました。運良く、第三者への経営譲渡を考えていた方に巡り会い、その農場で2年間の研修を受けて、農地と機械、施設、住宅を譲り受けました。先代の経営者からは、農業指導はもちろん、天候の変化の前兆や近所付き合いのコツまで伝授いただけ、幸先の良いスタートを切ることができました。

全力で取り組みれば
必ず何かにつながる

トライ&エラーを繰り返しながら、いかにしてモチベーションを保ち、効率よく最短距離でゴールに到達するか。そういう考え方や動き方は、会社員でも農家でもまったく同じです。だからこそ、日々の仕事単なる「作業」に終わらないよう、それが何につながるのかを常に意識しています。

ボランティアや農業体験、農家民宿、企業研修などで、えづらファームを訪れる人は年間のべ600人（白滝地区の人口に相当）に上ります。これは、地元の人いわく「何もない」この地域や農業に人を引き付ける魅力がある証拠といえます。また、国内外の多様な人と交わり、新しい知識や発想に触れられることは、私のモチベーションを

高める原動力にもなっています。やりたいことがないのをコンプレックスに感じている学生も少なくないでしょう。実は私もそうでした。どういふ会社や仕事であれ、自分にできることを最大限実行していけば、それは必ず何かにつながる。会社員から農家に転身した今、ボランティアの面接や企業研修をはじめ、あらゆる場面でそれを実感しています。

えづらファームの詳細：<https://www.ezurafarm.com/>

Ezura Akito



1979年和歌山県生まれ、北海道育ち。1999年、1期生として国際文化学部に入学。2003年に卒業後、人材紹介会社に入社し、企画営業を担当。2009年に北海道へ移住し、農業研修を経て、2012年4月、紋別郡遠軽町白滝地区に「えづらファーム」をオープン。2017年、第12回HAL農業賞「チャレンジ賞」を受賞。



アナログとデジタルをつなぐ数学

理工学部経営システム工学科 教授 磯島伸



アナログ量とデジタル量

世の中にはさまざまな量であふれています。その中には、切れ目のない値を取るアナログ量（連続量）と、とびとびの値を取るデジタル量（離散量）とがあります。アナログ量には時間、距離、温度などが当てはまります。デジタル量は、1個、2個、……などと数えられる量で、人口などがあります。ただし、連続と離散は必ずしも対立するものではなく、同じ対象に両方の見方がある場合も多いことに注意してください。例えば、時間はアナログ量ですが、日常では時間・分・秒というとびとびの単位で捉えます。逆に、離散量を連続量であるかのように扱うこともあります。例えば、静止画像を十分に小さい時間幅で続けて表示することで、切れ目なく動いているように見える

るのが動画です。

デジタルなモデルで交通流を再現

車社会の日本では、交通渋滞は大きな関心事です。その解消に向けて、数理の視点から何ができるでしょうか。渋滞が発生すると莫大な経済損失が生じるため、意図的に渋滞を起こしてデータを収集する実験を行うことはできません。そこで、交通の仕組みを表す数式を考えて、交通を理論的に再現する「おもちゃ（モデル）」を作り、そのモデルで実験して渋滞の対策を見いだします。その数式の作り方の一つとして、車1台1台が動くルールを数式で表現し、コンピュータ上で動かす方法があります。このとき、すべてをデジタル量として考えると、理解しやすいモデルを作ることが出来ます。ここでは一番やさしいものをご紹介します。

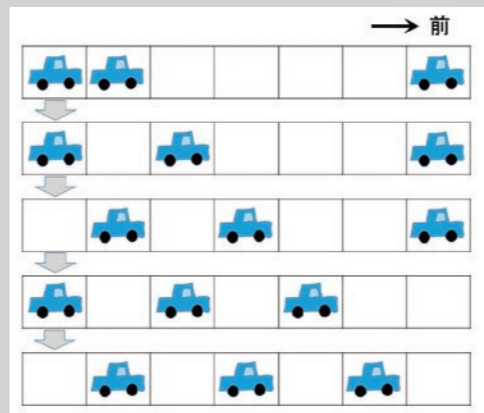


図1 交通流を理論的に再現するモデルの一例

況を、1台の車が区画間を移動したかどうか分かる程度のとびとびの時刻で観測します。そして車は、直前の区画が空いていれば次の時刻にそこへ進み、空いていなければ今の区画に留まるという規則で（ただし、移動できるかどうかをすべての車で判断してから一斉に）移動します。この簡単なモデルで、交通流の基本を捉えることができます。ただし、先頭の区画は一番後ろの区画につながっている（環状道路になっている）としています。より現実に近い場合には、前方区画に進む確率を導入する、停止している車が発車するまでのタイムラグを設定するなど、さまざまな設定を追加します。

壊れない波・ソリトン

無限個の箱を横一列に並べます。箱は何番目であるかを数えられるので離散量です。箱には、1個の玉を入れることができます。いま、有限個の玉を用意していくつかの箱に1個ずつ入れ、これを時刻0の状態とします（図2）。これらの玉を、次のルールで動かします。「まず、一番左にある玉を、右側にある一番近い空箱に移す①。次に、まだ動かしていない玉の中で一番左にある玉を、右側にある一番近い空箱に移す②」。この要領で、すべての玉を1回ずつ動かす。すべての玉を動かしたとき、これを時刻1の状態とします。以下、前述のルールを繰り返していきます。このモデルを「箱玉系」といいます。

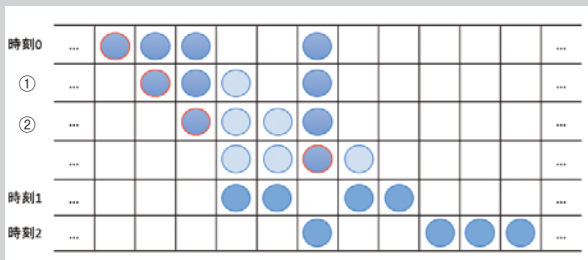


図2 箱玉系モデルの一例。上の4列が動かすルールで、赤枠が動かす玉、薄い色は動かした玉

玉の動きを観察すると、次の特徴が分かります。N個の玉が重なって前方に十分な空箱がある場合、この玉の集団（波と呼びます）は1時刻につきN箱分進みます。つまり、長い波ほど速く進み、長さの異なる波がある場合は（より長い波が後ろにあれば）、波同士はいずれ衝突し、波の長さも崩れます。しかし十分に時間が経つと、必ず元の長さを持った波に分かれ、長さという「波の個性」は衝突によって破壊されはしません。このような性質を持つ波の集団を「ソリトン」といいます。現実では、津波はソリトンの性質を持つ波とされています。歴史的には、偏微分方程式という連続量を扱う数式で最初に記述された現象で、

理解するには大学の理系学部レベルの知識が必要です。しかし、箱、玉、整数の時刻というとびとびの量だけを用いることで、簡単に、かつ本質がより明確になり、高校生でも理解できる表現になっています。このような例をもっと増やし、さまざまな現象を理解する新しい数学を作っていきたいのです。

連続の数学と離散の数学の交流を深める

本稿で述べた内容は、私自身が得た研究成果ではありません。連続量を扱う数学と離散量を扱う数学をつなぐ「超離散化」という技法の研究が、現在の私の専門です。本稿では交通流も波もデジタル量で説明しましたが、実は両方ともアナログ量の数学モデルがあり、超離散化によって直接対応することが分かっています。しかし、この技法は制約も大きく、いつでもアナログ量とデジタル量を対応付けられるわけではありません。

膨大な計算が必要となる離散量の研究の歴史は、数学の中では浅く、いろいろな知見を蓄積する必要があります。離散量は近年のデジタル計算機と相性が良く、また、計算機の発展によってその研究が現実味を帯びてきたという見方もあります。超離散化の技法をさらに拡張し、研究の蓄積によって豊かな連続の数学と、新しい離散の数学との交流を深めていくのが私の目標です。



Isojima Shin

1977年生まれ。2000年、東京大学教養学部卒業。同年、東京大学大学院数理科学研究科へ進学し、2005年、同博士課程（数理科学専攻）修了、博士（数理科学）取得。青山学院大学理工学部助教などを経て、2012年に法政大学理工学部経営システム工学科に准教授として着任。2018年より現職。専門は数学の非線形可積分系。



スポーツマネジメントを究めて スポーツの発展に寄与する

米国でスポーツマネジメントを学び、現地の学会からリサーチフェロー賞を受賞するなど国際的な評価も得ている吉田政幸准教授。スポーツ観戦がもたらす幸せについて、研究を広げています。

スポーツ健康学部スポーツ健康学科 准教授 **吉田 政幸**



会場でのスポーツ観戦が
ウェルビーイングを高める

スポーツマネジメントを専門として、スポーツマーケティングやスポーツ消費者行動論についての研究を続けています。現在のテーマは「スポーツ観戦と持続的ウェルビーイング (Well-being)」。その関係性について探究しています。

ウェルビーイングとは、身体的、精神的、社会的に良好な状態を指す概念です。健康であり、気持ち満ちたされ、人間関係も良好という具合に、三つの要素の調和が取れている状態です。

スポーツには人を魅了する力があり、多くのファンがいます。それならば、スポーツ観戦でウェルビーイングに貢献できるのではないかと。その因果関係を確かめたいと思っています。

日本で人気が高く、観客動員数も多いプロ野球とプロサッカー（Jリーグ）を中心に調査・検証を進めてみると、スポーツ観戦でウェルビーイングを得るには、「現地に行くこと」が重要だと分かりました。

観戦のために球場やスタジアムまで足を運ぶには、時間と労力、エネルギーを費やします。ゲームの臨場感に高揚して声を出したり手をたたいたり、活動量も多くなります。そうした

異質な世界に踏み出して
自分を成長させてほしい

研究者として国際基準に達していたという思いで研究にまい進した甲斐あって、2019年に北米スポーツマネジメント学会のリサーチフェローを受賞することができました。そうして蓄積してきたスポーツの知識、技能、能力。それを「実践知」として、惜しみなく学生に伝えてゆくことで、教育者としても力を尽くしていきたいと考えています。

振り返ってみると、留学生活を経験したことが、私自身の成長にとっても役立つように感じています。世界は広く、多様な価値観や国民性に触れる機会が溢れています。不便や困難を乗り越えることで自身の可能性が高まることもあります。学生には、情勢が落ち着いて自由に海外に行けるようになってから、一度は異質な世界に踏み込んで視野を広げてほしいと願っています。

1984年のロサンゼルスオリンピックは「商業五輪」の原点と呼ばれ、スポーツ界にとって大きな転換点となりました。赤字続きだった五輪の運営

スポーツとビジネスの
調和の取れた均衡を図る

身体的な刺激が活力を生むのです。さらに、会場には多くの人がいるので、ファン同士の一体感や絆を感じて、社会的なウェルビーイングが向上します。これらの相乗効果が、幸福感を高めると考えています。

コロナ禍の現在は、密閉・密集・密接を回避するため、会場は無観客となり、ネットワークを介したライブストリーミングで試合を見ながら応援するという新しい観戦スタイルが注目されています。しかし、それが定着してしまふことに危惧も感じています。どこにおいてもスポーツを見ることができ、利便性はありますが、身体的ウェルビーイングの向上という観点では不十分だからです。リモート観戦によって精神的な満足は得られても、スタジアム観戦で得られるような身体的、社会的な満足感には及びません。そうした意味でも、新型コロナの終息を迎え、会場に出掛けてスポーツ観戦を制限なく楽しめる日々が戻ってくることを願っています。



2019年に開催された、北米スポーツマネジメント学会のリサーチフェロー賞受賞式（前列左から3人目）。受賞を機にジャーナルの編集委員にも選出された



スポーツビジネス海外演習では、本場のプロスポーツビジネスを米国で学ぶため、学生と共にメットライフスタジアムを視察



スポーツビジネス海外演習では、自由の女神像を前にして、「自由を生き抜く実践知」の意味を考えて、意見交換している

危機を脱却するため、スポーツがビジネスとして経営される時代に入り、スポーツマネジメントへの関心が集中したのです。専門家の育成と学問体系の整備が急務となり、1985年に北米スポーツマネジメント学会が発足。北米を中心にスポーツマネジメントの研究が盛んになりました。

幕開けの時期を「スポーツマネジメント1.0」とすると、現在は2回目の転機を迎えているといえます。

最初の転機である「スポーツマネジメント2.0」は、スポーツのプロ化が進み、運営資金を獲得するためにスポーツマネジメントにマーケティングの手法が取り入れられるようになった1990年代。日本でもJリーグが創設され、プロスポーツとしてのサッカーに注目が集まりました。

そして、現在は「スポーツマネジメント3.0」、社会変革の時期です。利益を求めるビジネスの論理と、フェアプレーの精神や競技者の人間的成長を重視するスポーツ文化の論理は、相反する面があり、ときに歪みを生じさせます。ビジネスの視点がなければスポーツは発展しませんが、ビジネスに傾き過ぎると、ルールや運営方法が不当に変更され、人々が反発します。そのバランスを見極め、両者を調和することが課題になると考えています。

Yoshida Masayuki

1979年新潟県生まれ。筑波大学体育専門学群、同大学院修士課程修了。米国フロリダ州立大学スポーツマネジメント学科博士課程修了。博士（スポーツマネジメント）。びわこ成蹊スポーツ大学で専任講師、准教授を経て、2017年から法政大学スポーツ健康学部准教授に就任。Journal of Sport Management編集委員、日本スポーツマネジメント学会理事、ミズノスポーツ振興財団スポーツ学等研究助成・選考委員長などを務めている。

コンピュータの基礎分野の研究に携わる日高宗一郎教授研究室。研究室の名称である「基盤ソフトウェア」は、ソフトウェアを作る土台となるものです。処理速度やトラブルへの対処で常に改良が求められる領域で、研究室では専門機能に特化した改良を中心に探求しています。「主にプログラミング言語と、データの同期などで使われる『双方向変換』の技術の研究を手掛けています」と研究概要を紹介してくれたのは仲野さん。双方向変換とは、情報管理に欠かせない操作の一つで、二つ以上の情報源の間で、変換を介して一貫性を維持しながら、双方向に更新を伝播できるようにする仕組みです。「一方のデータに更新を加えたときに、自動的に情報を伝播して更新する仕組みを『同期』といいます。双方向変換の技術は、この同期に影響してくるので、より機能的にできる方法を掘り下げて研究してみたい」と、研究の種を育てています。

4年次の研究活動は、卒業研究に向けて、自分が個別に取り組むテーマを模索するところから始まり、「研究テーマが絞り込みやすくなるように、春学期に、自分が興味のある分野に近い論文を選んで読み解き、その要点をまとめてプレゼンテーション形式で紹介する論文発表会を実施

情報科学部コンピュータ科学科コンピュータ基礎分野基盤ソフトウェア研究室(日高宗一郎教授研究室)

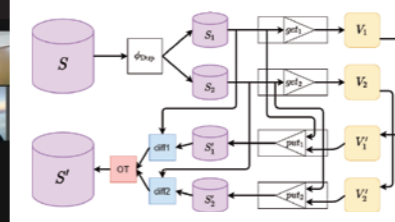
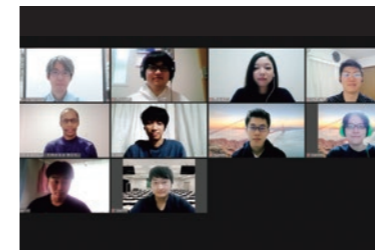


「双方向変換」などのコンピュータシステムの基盤を支える技術を探究

ゼミナール・研究室

上段左から、日高宗一郎教授、仲野祐希さん、下段左から、荒井紫花さん、内木悠天さん ※全員、情報科学部コンピュータ科学科4年

※今回はオンラインで取材しています



2021年度の日高研究室の在籍学生は大学院生も含め、9人。コロナ禍でもそれぞれが工夫しながら研究に励んでいる

データの双方向変換において、偏りなく公平に更新が伝わる仕組みを図示化したもの(2020年度に卒業した土生さんの卒論より)

2018年に開催した冬合宿の一枚。合宿は定例ではなく、時期や内容も含めて、学生の希望と状況に応じて実施している

「今はイベントの開催自体が難しく、準備にもさまざまな苦労がありますが、みんなが積極的に協力して助けてくれるので、メンバーに恵まれたサークルだと自負しています」とチムリーの団結力を語るのは、代表の趙さん。「準備や練習でどれだけ大変な思いをしても、ステージで披露したパフォーマンスに歓声があがると、激しいダンスを踊っても疲れを感じなくなるほど、力が全身にみなぎってきます。そんなイベントを安心して開催できる日常が、早く戻ってきてほしいです。今は、サークル全員が感染予防の意識を高く持ち、元気に笑顔で活動を続けていくことが最大の目標です」と力強く語り、コロナの沈静化に願いを託します。

「今はイベントの開催自体が難しく、準備にもさまざまな苦労がありますが、みんなが積極的に協力して助けてくれるので、メンバーに恵まれたサークルだと自負しています」とチムリーの団結力を語るのは、代表の趙さん。「準備や練習でどれだけ大変な思いをしても、ステージで披露したパフォーマンスに歓声があがると、激しいダンスを踊っても疲れを感じなくなるほど、力が全身にみなぎってきます。そんなイベントを安心して開催できる日常が、早く戻ってきてほしいです。今は、サークル全員が感染予防の意識を高く持ち、元気に笑顔で活動を続けていくことが最大の目標です」と力強く語り、コロナの沈静化に願いを託します。

「今はイベントの開催自体が難しく、準備にもさまざまな苦労がありますが、みんなが積極的に協力して助けてくれるので、メンバーに恵まれたサークルだと自負しています」とチムリーの団結力を語るのは、代表の趙さん。「準備や練習でどれだけ大変な思いをしても、ステージで披露したパフォーマンスに歓声があがると、激しいダンスを踊っても疲れを感じなくなるほど、力が全身にみなぎってきます。そんなイベントを安心して開催できる日常が、早く戻ってきてほしいです。今は、サークル全員が感染予防の意識を高く持ち、元気に笑顔で活動を続けていくことが最大の目標です」と力強く語り、コロナの沈静化に願いを託します。

韓国のポップミュージックカバーダンスを中心に活動しているchumuly(以下、チムリー)。80人を超える部員が在籍し、曲ごとにグループを組み替えながら、それぞれが担当するメンバーに引きつって再現性を高めています。

日頃の練習の成果は、年に3回開催する公演で披露。春は新入生歓迎公演、夏は保護者や友人にも見ってもらうお披露目公演、秋は大学祭と、それぞれに趣向を凝らしています。「新歓公演を見に行った時に、先輩たちの息の合ったパフォーマンスや衣装のクオリティーに感動しました。すっかり魅了されて、絶対に仲間に入りたいたいと思いました」と思い出を振り返った川澄さん。「2020年度は大学施設の利用が制限されていたので、自宅でそれぞれ個人練習に励み、状況を見ながらスタジオを借りて練習するなどして、感染予防に気を付けながら活動していました」と制限の中でパフォーマンススキルを向上する工夫を語ります。

公演と並んで力を入れているのが、学外の主催者が年に2回開催する「大学サークル対抗K-POPカバーダンスコンテスト」への出場です。初回から連続出場しているチムリーは優勝経験も豊富で、前回(2019

K-POPダンスサークル「chumuly」

K-POPのカバーダンス息を合わせて完全再現を目指す

クラブ・サークル

※今回はオンラインで取材しています

上段左から、趙夏瑩さん(経営学部経営戦略学科3年/代表)、南本紫穂さん(人間環境学部人間環境学科3年)、下段、川澄莉々さん(人間環境学部人間環境学科3年)



2019年11月に開催した大学祭での一枚。幹部学年の引退公演になるため、先輩の有終の美を飾ろうと部員全員が団結して公演を盛り上げる



合宿は夏と春の年2回。夏は交流メインで親睦を深め、春は新入生歓迎公演に向けてのパフォーマンス強化と、目的を分けている(写真は2019年)



2021年4月に開催した新入生歓迎公演にて。初めて学外のホールを自分たちで手配して、念入りに感染症対策を実施した上で開催

*写真撮影のため、一時的にマスクを外しています。

「今はイベントの開催自体が難しく、準備にもさまざまな苦労がありますが、みんなが積極的に協力して助けてくれるので、メンバーに恵まれたサークルだと自負しています」とチムリーの団結力を語るのは、代表の趙さん。「準備や練習でどれだけ大変な思いをしても、ステージで披露したパフォーマンスに歓声があがると、激しいダンスを踊っても疲れを感じなくなるほど、力が全身にみなぎってきます。そんなイベントを安心して開催できる日常が、早く戻ってきてほしいです。今は、サークル全員が感染予防の意識を高く持ち、元気に笑顔で活動を続けていくことが最大の目標です」と力強く語り、コロナの沈静化に願いを託します。

THE SCENE

大学有数の歴史と実力を誇る、法政大学体育会。
そんな伝統ある40体育会が日々活動しているワンシーンを、迫力あるカラーグラビアで紹介します。



陸上ホッケー部

撮影場所：多摩キャンパス
陸上ホッケー場
撮影：田中伸弥

陸上ホッケー部は、1924(大正13)年に創立されました。これまでの戦績は、全日本ホッケー選手権大会で4回、全日本学生ホッケー選手権大会で7回、全日本学生王座決定戦で1回の優勝を飾っています。現在は関東学生ホッケーリーグの1部に所属。2020年の秋季リーグは5位という悔しい結果となりました。社会人チームも出場するホッケー日本リーグでは、2部(H2)に所属しています。2020年日本リーグでの戦績は7位で、こちらも悔しい結果となりました。今シーズンこそ、関東学生ホッケーリーグ優勝、ホッケー日本リーグ1部昇格を目標に、チーム一丸となって日々練習しています。応援よろしくお祈りします。

Message

「自由な学風」の下で、自ら考え、
行動する学生の声を届けます。

Well-being～幸せな世界～

現代福祉学部福祉コミュニティ学科4年

Narusawa Ayumi

成澤 あゆみ さん

カンボジアのHands of Hope Community Schoolで
現地の子ども、先生と共に



「Well-being～幸せな世界～」という動画に詰め込みました。何度も東南アジアを訪れ、「大學生の私でも何かできることはないだろうか」ともがき続けた日々

「Well-being(ウェルビーイング、健康で幸せな暮らし)」は大学で出会った最も好きな言葉であり、大切にしている言葉です。現代福祉学部では、この理念のもと、社会福祉、臨床心理、コミュニティマネジメントの学問を組み合わせたから、日々正解のない課題に立ち向かっています。

2020年に大学で学んだ「障がい」と「東南アジア」をテーマにした動画を作成し、「第2回SDGsクリエイティブアワード」でJICA特別賞を受賞することができました。カンボジアの障がいのある子どもたちが通う学校を訪れ、現代福祉学部、スポーツ健康学部の仲間と実施した「障がいインクルーシブなスポーツ」活動の様子を「Well-being～幸せな世界～」という動画に詰め込みました。何度も東南アジアを訪れ、「大學生の私でも何かできることはないだろうか」ともがき続けた日々

が原点です。「その思いを形にする」として、たくさんの方の幸せについて考えるきっかけづくりになるのでは」と、佐野竜平准教授が助言してくれました。学生生活を通して最も強く感じたのは「意外となんとかかなる！」ということ。何の肩書きも経験もない大學生のために支援してくれる大人も、今までもらったことのないくらい笑顔を見せてくれる子どもたちもたくさんいます。SDGsの17のゴールから「健康と福祉、教育、平和」を焦点にアクションを起こしたつもりでも、実際は多くのものを受け取っていました。

今後は、「絵本づくり」に挑戦したいと考えています。どんな大きな夢も描けること、自分を応援してくれる人は必ずいること、幸せは一人ひとり違うことを、世界中の子どもたちに伝えたいです。どんなときも惜しめない愛情を注ぎ、わがままを受け入れてくれる家族、支えてくれる先生、負けたくないけど応援してくれた友人たちがいたからこそ、大學生活が充実できていると強く感じています。

これからも大切な人々への感謝を忘れず、人のために挑戦し続けられる人でありたいです。



※成澤さんが作成した動画は、右記よりご覧いただけます。
「第2回 SDGsクリエイティブアワード受賞作品」



後援会だより

「子どもの母校は我が母校」
「後援会だより」は後援会が保護者の皆さまと作るページです

2021年度後援会会長 就任あいさつ



法政大学後援会会長 友利 方彦

平素より、後援会活動にご理解ならびにご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年来の新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、後援会活動も厳しい制約・条件下での展開を余儀なくされる状況が続いております。2020年度と同様、オンライン形式での開催となった後援会総会において2021年度会長に推挙され、1年間会員の皆さまと共に学生および大学への支援のお手伝いをさせていただくこととなりました。75年目を迎える歴史と伝統のある後援会の会長として運営に携わることとなり、その責任の重さに身の引き締まる思いであります。

法政大学後援会は、1947年に保護者自らが立ち上げたボランティア組織で、現在、首都圏および北海道から沖縄県までの全国36支部に約2万7000人の会員を有しております。

後援会ではこれまで、学生の勉学に伴う支援を第一に考え、それに関連して大学が実施する教育事業や課外活動に対し助成を行ってまいり

ました。しかし、昨今の私立大学入学定員厳格化に伴う会員数の減少や、支部会員数が減りつつある中での支部活動の維持など、後援会を取り巻く環境も厳しさを増しております。これまでの諸先輩方が築き、守り続けてきた理念を継承するとともに、現況を踏まえた新たな活動方法も取り入れ、活動を継続してまいりたいと考えております。

会員の皆さまには、より一層の後援会活動へのご理解、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

なお2021年度も、コロナ禍の中で活動を継続していくことになるため、今後予定している行事につきましても、状況次第では開催を中止する場合があります。最新情報は後援会ウェブサイトなどでその都度発信してまいりますので、ご確認いただきますようお願いいたします。

会長退任あいさつ



2020年度会長 清水 伸行

皆さまには平素より後援会活動にご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。このたび後援会会長の任期を終え、友利新会長へ「後援会伝統の襷」を無事つなぐことができました。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症と向き合う1年でした。正体の分からない不安の中、緊急事態宣言が発出され、学生はもろろん大学の教職員の方々も初めての経験に戸惑いながら対応に追われた前半となりました。手探りで始まったリモート授業やオンデマンド授業は、田中優子前総長をはじめ、教職員の皆さまがご苦労と試行錯誤を重ねられた結果、大学授業における新たなスタンダードになりました。

その他、計り知れないさまざまな事案に対応されている教職員の皆さまに、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

後援会におきましては学生への支援として「新型コロナウイルス感染症に伴う家計急変奨学金事業」等の寄付を行いました。この支援は、2021年度も継続して行う予定です。

会長在任中は、後援会活動を通して人とのつながりの大切さ、支え合う大切さを改めて実感できました。

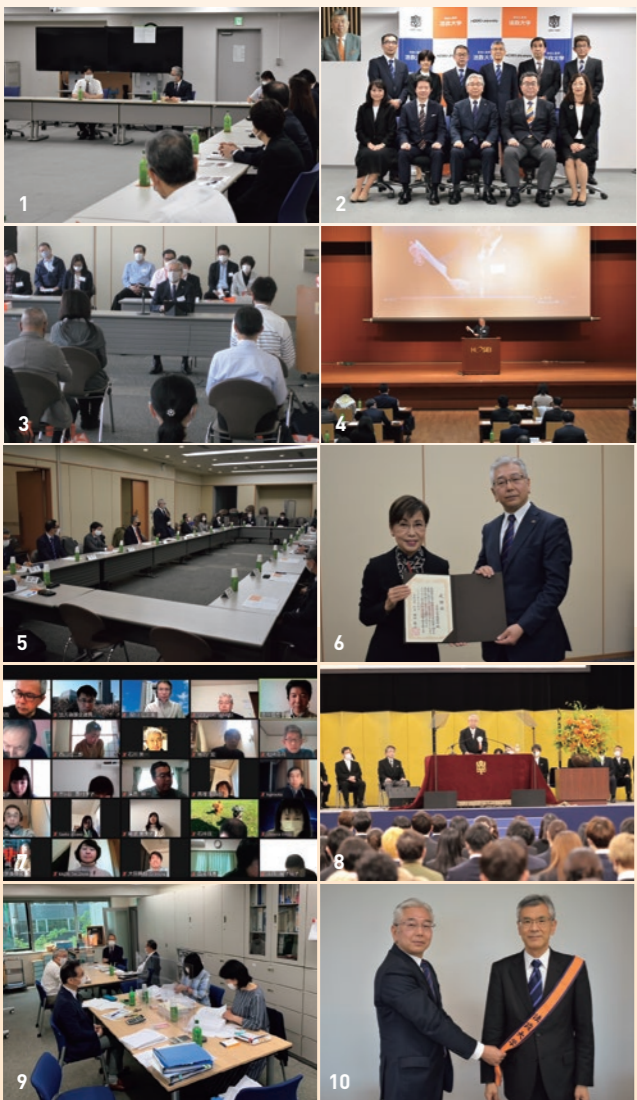
後援会の目的である「学生と大学を支援する」活動が、皆さまのご理解・ご協力により実

現できたことに心より感謝申し上げます。

1年間、会長業務を支えてくださった多くの方々、保護者の皆さま方、誠にありがとうございました。

2020年度は田中前総長の任期最終年度でもありましたが、コロナ禍でご苦労の絶えない1年間だったと思います。本当にお疲れさまでございました。学生支援にご尽力を賜り、誠にありがとうございました。

写真で見る清水会長の1年間



- 1 2020年6月20日(土)運営会議
- 2 2020年6月20日(土)運営委員集合写真
- 3 2020年10月24日(土)新幹事予定者説明会
- 4 2020年11月14日(土)支部長会議
- 5 2020年11月25日(水)総長、学内理事との懇談会
- 6 2020年11月25日(水)「新型コロナウイルス感染症に伴う家計急変奨学金事業」に寄付を実施し、田中優子総長(当時)より感謝状授与
- 7 2021年2月20日(土)常任幹事会(オンライン)
- 8 2021年4月3日(土)2021年度入学式後援会会長あいさつ
- 9 2021年5月8日(土)期末監査
- 10 2021年6月5日(土)総会、友利新会長へ襷をつなぐ

2021年度 法政大学後援会の主な年間行事

月日	曜日	行事	内容
4月 3日	土	入学式(大学行事)	日本武道館にて開催。後援会会長が後援会の活動について説明
5月15日	土	幹事会(オンライン併用)	後援会の役員会。決算報告、予算案等を審議
6月 5日	土	支部長会議(オンライン会議)	後援会事業と支部総会・父母懇談会について打ち合わせ
		総会(電子表決)	事業報告・決算報告、事業計画・予算案、2021年度役員を審議決定
7月	(日程未定)	校友会との懇談会	大学発展のために、校友会と後援会が年1回行う懇談会
7月~8月	土・日	支部総会・父母懇談会(オンライン併用)	全国36支部で開催。総長、理事、副学長、学部長、学務・学生・就職関係職員が講演や説明を行う
10月 3日	日	首都圏父母懇談会(市ヶ谷キャンパス)	東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県在住の会員を対象に各キャンパスごとに開催。講演等が行われる(多摩キャンパスは多摩祭と同日開催)
10月10日	日	首都圏父母懇談会(小金井キャンパス)	
10月16日	土	首都圏父母懇談会(多摩キャンパス)	
11月13日	土	支部長会議(支部長懇談会)	支部活動の報告と意見交換
		副学長・学部長・学生センター長・後援会懇談会	支部父母懇談会で会員から寄せられた質問等に副学長、学部長、学生センター長が回答
11月14日	日	支部長会議	支部総会・父母懇談会の報告、活動の情報交換
11月24日	水	総長・学内理事との懇談会	総長、学内理事と後援会運営委員が会談
1月 8日	土	オール法政賀詞交歓会	総長をはじめとする法政関係者が集う新年会
3月 5日	土	幹事会	後援会の役員会。次年度暫定予算などを審議
		後援会賞、外国人留学生表彰	スポーツで活躍した学生や難関試験を突破した学生、国際交流に尽くした外国人留学生を表彰
3月24日	木	学位授与式(大学行事)	日本武道館にて開催

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響などにより変更になる場合があります。

2021年度 父母懇談会開催日程のご案内

詳細につきましては、該当の皆さまに順次郵送にてご案内いたします。
最新の情報は随時、後援会ウェブサイトにてお知らせいたしますので、併せてご覧ください。



2021年度 首都圏父母懇談会 開催日程

2021年5月14日現在

キャンパス名	首都圏父母懇談会
市ヶ谷	10月 3日(日)
多摩	10月16日(土)
小金井	10月10日(日)

2021年度 父母懇談会 開催日程

2021年5月14日現在

支 部	開催日程
青森県	7月10日(土)
岩手県	7月 3日(土)
郡山・福島	7月17日(土)
茨城県	7月24日(土)
栃木県	7月11日(日)
群馬県	8月28日(土)
新潟県	8月22日(日)
富山県	8月 1日(日)
石川県	7月11日(日)
福井県	7月10日(土)
長野県	7月25日(日)
静 岡	7月10日(土)
浜 松	7月 4日(日)
東 海(愛知県、岐阜県、三重県)	7月31日(土)
関 西(大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、滋賀県)	8月 1日(日)
鳥取・島根県	7月 3日(土)
広島県	7月18日(日)
山口県	7月25日(日)
徳島県	8月22日(日)
香川県	8月21日(土)
愛媛県	8月22日(日)
高知県	7月18日(日)
福岡県	8月21日(土)
佐賀・長崎県	8月22日(日)
熊本県	8月29日(日)
大分県	8月29日(日)
宮崎県	7月11日(日)
沖縄県	8月29日(日)

※北海道、宮城県、秋田県、山形県、山梨県、岡山県、鹿児島県の各支部は非開催です。
新型コロナウイルス感染症拡大の影響などにより、日程が変更になる場合があります。

法政大学後援会

<事務局>
〒102-0073
東京都千代田区九段北3-2-3
法政大学九段校舎4F
TEL: 03-3264-9350
FAX: 03-3264-9367
E-mail: koenkai@hosei.ac.jp



後援会ウェブサイト
<https://www.hosei-koenkai.org/>

2021年度 後援会役員

会長	友利 方彦						
副会長	相澤 さえ子	石井 亘	諏訪部 真理	西山 広二郎			
総務	浅見 佐亨	市瀬 恵美子	鯨岡 光男	滝沢 かおり	松崎 浩司	小林 こずえ	白鳥 高
常任幹事							
4年	熱田 夏子	石川 英一	大笹 勝典	春日井 恵	原岡 麗子	横山 久美子	
3年	石原 康弘	井上 宏	島村 孝子	添田 一恵	長谷川 裕美子	細井 圭一	
2年	大口 泰孝	小泉 千恵	小出 由紀子	萩原 順子	間瀬 頼彦	渡邊 千恵	
幹事							
4年	岡島 健	小林 敏和	小宮 美知代	紫藤 尚利	島田 昌彦	清水 由美	西尾 純子
	宮越 康成	宮原 富士雄	宮本 幸枝	我妻 麻子			
3年	岩佐 大秀	蛭原 典子	小中 道子	杉山 美佐和	玉井 裕子	仲間 ルリ子	中村 章子
	畑島 久美子	柵木 久美子	松尾 奈穂子	山本 陽子			
2年	新井 健一	荒田 栄作	石田 勝行	稲木 裕加里	尾島 淳	川島 和仁	喜多 紀州
	桑原 宏隆	小林 孝一	笹林 真弓	清水 真美子	中島 順子	米元 麻枝	和佐原 征一郎
1年	赤塚 真紀子	石塚 好明	太田 ヒカル	香川 敬三	木田橋 あすか	草ヶ谷 誠一	坂井 博
	地頭江 正美	渋谷 美由紀	下村 利恵	竹久 久美子	豊田 稔子	中西 良尚	林 弘行
	藤崎 隆弘	本田 美輝	昌山 友美子	丸塚 久美	森田 佳子	森山 加世子	山崎 雅彦
	吉岡 健						
監査	石橋 久美子	魚躬 有理					

2021年度 収支予算書 (2021年4月1日～2022年3月31日)

【収入の部】

(単位:円)

科目(款)	2021年度予算額
1.一般収入	227,055,000
2.雑収入	1,112,000
3.積立金・引当資産からの繰入	67,000,000
4.預り金収入	0
5.期末未収入金	2,703,000
当年度収入合計(A)	297,870,000
前年度繰越金	170,119,000
収入合計(B)	467,989,000

【支出の部】

(単位:円)

科目(款)	2021年度予算額
1.自然災害等被災(含む、コロナ困窮)学生のための学生支援費	60,000,000
2.学生支援費	100,465,000
3.会員情報費	29,957,000
4.会員行事費	42,280,000
5.役員活動費	14,005,000
6.企画運営費	17,441,000
7.人件費	11,882,000
8.学生支援積立金	72,000,000
9.後援会積立金	0
10.引当資産	1,000,000
11.未払金支払	37,000
12.前払金	0
13.予備費	5,000,000
14.期末未払金	0
15.前期末前払金支払	6,000
16.預り金支払	0
当年度支出合計(C)	354,073,000
当年度収支差額(A)-(C)	△56,203,000
次年度繰越金(B)-(C)	113,916,000
支出合計(D)	467,989,000

※2021年6月5日後援会総会にて、上記の2021年度後援会役員と2021年度収支予算書を含む全議案の承認を頂きました。
なお、後援会総会の決議結果報告は後援会ウェブサイトに掲載しております。



HOSEIミュージアム
HOSEI UNIVERSITY MUSEUM

法政テニスの軌跡 法政初のデビスカップ代表・中野文照

日本がオリンピックで初めて獲得したメダルは、1920(大正9)年ベルギー・アントワープ大会のテニス種目でした。

明治初期にもたらされたテニスは当初、日本独自のゴムボールを使った「軟式テニス」として発展します。1919年に発足した本学庭球部でも、翌年から徐々に硬式に移行しました。

中野文照は1900年に及ぶ歴史を持つ法政テニス部が最初に生み出した名手です。1915年、岐阜県の寺に生まれた中野は、京都の花園中学校を経て1932年に法政大学に入学。すぐに頭角を現し、対関西大学定期戦で5年ぶりの勝利の原動力となりました。中野は「自分で体験し、考え抜いたものでなくては身に付かない」という信念を持ち、練習相手を他校

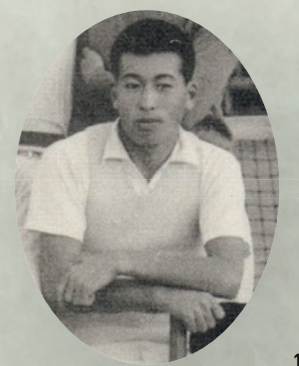
に求めて古豪が集まる慶應義塾大学や早稲田大学の練習・合宿に参加。法政の仲間たちがこうしたやり方を理解し協力したことが、彼の支えになりました。

小柄ながら「フォアハンドの猛打で日本では中野の右に出るものなし」と評された中野は、在学中の1937年に国別対抗戦のデビスカップ代表に選出され、国際舞台に飛び出します。翌年には、全仏選手権で4回戦に進出。2013年に錦織圭選手が同選手権で4回戦へ進出した際に、「中野以来75年ぶりの快挙」と報道されたことは記憶に新しいところです。

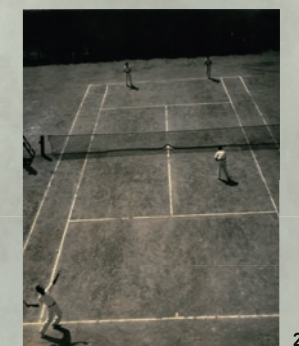
戦時中は陸軍に召集され、中国戦線に送られました。生水を飲んで赤痢にかかり入院した野戦病院で、学生時代にテニスをやっていた軍医が中野に気付き、命拾いを

したといえます。戦後のテニス界に戻った中野は、全日本選手権連覇を達成し、デビスカップ代表にも復活しました。

中野の同期でライバルでもあった松本武雄が、母校のテニス部監督に就任したのは1955年のこと。テニス指導に情熱を注いだ松本の下で、史上初のインカレ3連覇(シングルスを果たしたのが、法政二高から進学した神和住純です。卒業後は、日本で戦後初のトーナメントプロとなり、1970年代以降のテニス界を牽引。現役引退後は、デビスカップの日本代表監督も務め、2009年〜2017年には本学スポーツ健康学部の教授を務めました。法政テニス部は他にも、国際的に活躍するテニス選手を数多く送り出しています。



1



2



3

2021年度上半期テーマ展示 「HOSEIスポーツの原点」

昨年度に続き、今回は陸上競技部、スキー部、テニス部の原点を形づくった人物やエピソードを紹介
場所：市ヶ谷キャンパス九段北校舎1階
詳細：HOSEIミュージアムウェブサイト
(<https://museum.hosei.ac.jp>)

- 1 デビスカップ代表に初選出された頃の中野文照(1937年)
- 2 戦時下のスポーツ統制を経て、戦後復活したテニス部の練習風景。当時は本学にコートがなく、田園テニス倶楽部のコートを本拠地としていた(1946年、下津佐正夏撮影)
- 3 神和住純の著書「わが青春の軌跡」(1977年、光風社書店)と、学生時代からトーナメントプロになるまで使用していたラケットと同じモデルのKawasaki製ラケット

校友会だより

一般社団法人法政大学校友会(以下、校友会)は、「法政ネットワーク」強化により校友憲章に謳っている「価値の創生・共創」を基本理念に、大学、後援会と手を携えて三位一体で諸事業を推進してまいります。

後援会などと連携し、積極的に活動を展開する富山県校友会

卒業生団体の中核を成す81のパートナー組織(校友会会員が40人以上在籍)は、全ての世代がつながる「オール法政ネットワーク構築」を目指して、さまざまな取り組みを行っています。今回は、後援会と連携して活動している富山県校友会をご紹介します。

富山県校友会だより

1947年結成の法政大学富山県人会を前身とする富山県校友会は、約10年前から後援会、後援会のOB・OGから組織される後援会クラブと三者懇談会を開催し、互いの総会へ出席するなど、緊密な連携を図っています。

これまで、公開講演会および懇親パーティーの共催をはじめ、スポーツ推薦入学者の激励会(校友会主催)、富山市で開催された東京六大学野球オールスターゲームへの協力などを通して、相互の信頼関係を深めてきました。

また、多くの先輩の情熱と母校愛によって、富山県下高等学校雄弁大会や文化講演会、大学のアカデミー合唱団の公演をはじめ、校友名簿の作成、校友会報の

発行、神宮観戦ツアーの実施、大学応援団夏期合宿の誘致など、法政ファミリーの一員としての喜びと誇りを実感してもらえ、多種多様な事業に取り組んできました。こうした多彩な活動を支えているのは、会員への次の三つの想いです。

- ① 母校愛を喚起し、校友会活動に関心を持ってもらいたい
 - ② 社会貢献活動などを通じて、法政の知名度を上げ、母校の校格の向上に寄与してもらいたい
 - ③ 法政人としての誇りを持ち、ネットワークを活用しながら、実りのある人生を歩んでもらいたい
- 昨年11月には、ソーシャルディスタンスを確保しながら、「菅義偉内閣総理大臣の誕生を祝う校友の集い」を開催しました。校友初の総理大臣誕生とあって、当日は出席された校友はもとより、後援会や後援会クラブの役員からも「法政関係者に勇気と希望、そして大きな喜びをもたらしてくれた」というあいさつがあり、法政人としての誇りを共有しました。今後は就職や進路に悩みを抱える学生

も交え、四者で情報交換の場を設けることも検討しています。富山県出身の学生は、ぜひこうした場に参加して、「法政ネットワーク」を実感していただければと思います。

引き続き後援会などと連携を図りながら、世間から魅力ある大学として高い評価を得られるよう、法政のイメージアップ、ブランド力向上のためにさらなる努力を重ねていきます。



校友会ウェブサイト



2021年3月13日(土)に開催された「スポーツ推薦入学者激励会」。



2020年11月8日(日)に開催された「菅義偉内閣総理大臣の誕生を祝う校友の集い」で講演を行った松下新平参議院議員(1992年卒業)

「第54回東京六大学対校陸上競技大会」にて8連覇達成



黒川和樹選手(写真提供:スポーツ法政新聞会)

4月18日(日)、「第54回東京六大学対校陸上競技大会」が開催され、陸上競技部はオープン種目を含む7種目で優勝し、男子の部で総合優勝。8連覇を達成しました。

【主な優勝種目】男子800m:松本純弥選手(経済学部3年)、男子110mハードル:横地大雅選手(スポーツ健康学部3年)、男子400mハードル:黒川和樹選手(現代福祉学部2年)、男子円盤投、男子砲丸投:岩撫健太郎選手(経済学部1年)、女子100m:川中葵琳選手(スポーツ健康学部2年)、女子円盤投(オープン種目):藤田真実子選手(スポーツ健康学部3年)

なお、黒川選手は5月9日(日)に開催された「陸上東京五輪テスト大会」の男子400mハードルにも出場。自己ベストの48秒68で優勝し、東京オリンピック参加標準記録を突破しました。

佐藤大樹選手、田中和樹選手が、「2021年JFA・Jリーグ特別指定選手」に認定

本学サッカー部の佐藤大樹選手(経済学部4年)はFC町田ゼルビア、田中和樹選手(社会学部4年)は京都サンガF.C.への加入が内定し、現在のチームに所属登録したまま、Jリーグなどの試合に出場可能となる「2021年JFA・Jリーグ特別指定選手」に認定されました。



佐藤大樹選手 田中和樹選手
(写真提供:サッカー部) (写真提供:サッカー部)

今後本学サッカー部出身選手の活躍にご注目ください。

法政大学ポータルサイト「Hoppii(Hosei portal to pick up information)」を活用しましょう

法政大学ポータルサイト「Hoppii(Hosei portal to pick up information)」では、最新の情報をお知らせしています。

授業の実施状況やキャンパスの入構ルールなどをはじめとした、さまざまな情報が掲載されていますので、在学生の皆さんは常に確認するようにしましょう。

Hoppiiから学習支援システムやWeb掲示板にログインできます。



Hoppii
トップページ

小金井企画実行委員会委員長が 新入生歓迎会の入室管理システムを開発

小金井キャンパスでの学生会主催行事を企画、実施する小金井企画実行委員会委員長を務める菅原太樹さん(理工学部応用情報工学科4年)が、2021年度新入生歓迎会開催に当たって、QRコードを活用する入室管理システム「MiNERVA」を開発しました。

このシステムは、スマートフォンのブラウザで動作し、参加者がいつ、どこに、誰がいたかを管理できます。

新入生歓迎会終了後は、導入を希望する本学他キャンパス学生会主催行事実行委員会やその他大学の機関への配布、導入サポートを行う予定です。また、オープンソースプロジェクトとしてGitHubにも公開されています。



IGESSキャンパスツアーを実施

4月6日(火)、多摩キャンパスにてIGESS学生向けキャンパスツアーを実施しました。

IGESSとは、英語で学位が取得できるプログラムの一つで、IGESSに所属する学生は、9月に入学後、1年半を市ヶ谷キャンパスで過ごし、2年次春学期から多摩キャンパスに学びの場を移して、学生生活を送ります。

IGESS学生が多摩キャンパスに早くなじめるように、学生たちがガイド役を担当し、キャンパス内の各施設や利用方法を紹介。一緒にキャンパスを回りながら、英語で案内するという和やかなキャンパスツアーとなりました。



理工学研究科在学生が電気学会 東京支部にて奨励賞を受賞

「電気学会東京支部」で令和2年度「電気学術奨励賞・電気学術女性活動奨励賞」が決定され、本学からは理工学研究科在学生の2人が受賞しました。

- ◆伊藤 慧さん 「電気学術奨励賞」
電磁界解析を援用した永久磁石同期電動機の効率的設計最適化手法を提案したことによる表彰
- ◆加藤えみりさん 「電気学術女性活動奨励賞」
電気工学を修めた優秀な学生として表彰

GISのGregory Khezrnejat 准教授が 「第2回京都文学賞」を受賞

GIS(グローバル教養学部)のグレゴリー・ケズナジャット(Gregory Khezrnejat)准教授が、全編日本語で書いた小説「鴨川ランナー」が、第2回京都文学賞を受賞しました。

同作品は、一般部門と海外部門の両部門において、最優秀賞を受賞。今秋には講談社から刊行される予定です。



「大学生からのコミュニケーション講座」開催

4月15日(木)(市ヶ谷)、16日(金)(小金井)、19日(月)(多摩)、各キャンパスにおいて、新入生、新2年生を対象に課外教養プログラム「大学生からのコミュニケーション講座」を開催しました。本学兼任講師の鈴木まり子先生を講師に迎えて、オンライン上のコミュニケーションの不安解消と、今後の学生生活を有意義にするためのコミュニケーションスキルを学ぶことを目的としたプログラムです。

当日は、鈴木先生から「コミュニケーションのスキルとマインド」についての講義が行われた後、参加者を少人数のグループに分け、実践を兼ねたグループワークが行われました。



ライブラリーサポーターによる オンライン企画を開催



ライブラリーサポーターが企画した新入生向けのイベントがオンライン開催されました。ライブラリーサポーターとは、学生の力で魅力的な図書館づくりを目指すという学生ボランティアです。

多摩図書館では、4月11日(日)に、おすすめの一冊を紹介し合い「どの本を一番読みたくなったか」を基準に競う「オンラインビブリオバトル」を開催。市ヶ谷図書館では、4月22日(木)に「4年生が直伝!就活・大学生活に役立つ新聞の読み方講座」を開催し、66人の参加がありました。4月26日(月)には、3人の発表者がプレゼンテーション方式で後輩におすすめしたい本を紹介する「先輩の『推し本』ビブリオトーク」を催しました。

市ヶ谷ボランティアセンター主催で 「災害救援ボランティア講座」を実施

3月17日(水)~19日(金)の3日間にわたって、災害救援ボランティア推進委員会、東京防災救急協会、千代田区・千代田区社会福祉協議会の協力のもと「災害救援ボランティア講座」を実施しました。

災害救援ボランティア講座は、全講座受講することにより、上級救命技能認定証、セーフティリーダー認定書が交付されます。市ヶ谷ボランティアセンターでは、災害時などにリーダーとしてボランティア活動ができる学生の育成を目標に、これからも本講座を実施していきます。



夏季休暇期間中の図書館の 開館・利用情報

夏季休暇期間中も市ヶ谷、多摩、小金井の各図書館は開館し、長期貸出を実施します。開館日時の詳細は図書館ウェブサイトでご確認のうえ、ご利用ください。

※ただし、8月13日(金)~8月19日(木)の期間は、休館となります。休館期間中、法定停電およびシステムメンテナンスによりOPACなどでの各種検索サービスや電子資料の閲覧および、開館カレンダーの表示ができない場合があります。



法政大学図書館

「ピアネットガイド」を発行



ピアネット
ガイド

学生による、学生をサポートするためのスタッフ活動(ユニット)のネットワークである「ピアネット」。課外教養プログラムプロジェクト(KYOPRO)など、10以上のユニットが活動を展開しています。教育開発・学習支援センターでは、ピアネットを総合的に紹介する「ピアネットガイド」を発行。新入生をはじめとした多くの学生にピアネットについて知ってもらうことを期待しています。

学習ステーション主催で 「Zoomでオンキャンin市ヶ谷」を実施



「Zoomでオンキャンin市ヶ谷」は、市ヶ谷キャンパスを舞台に、とある2人の学生が送る大学生活の一日を、Zoomを通じて体験できる、学習ステーション主催の視聴型プログラムです。コロナ禍で通学機会の少ない学生向けに開催しました。

一緒に校内を歩いているような感覚で、市ヶ谷キャンパスを案内。法政大学に関する疑問、役立つ情報など、トークによる交流も行われました。

本学専任教職員の最近の著書、編纂書、訳書をご紹介します。

BOOKS



政治と報道 報道不信の根源

「野党は“反発”、政権側は“反論”」「決定打を欠いた」「笑われる野党にも責任」——。メディアが政策論争に沿った報道ではなく、対戦ゲームのような政局の報道に終始するのはなぜなのか。統治のための報道ではない、市民のための報道に向けて、政治報道への違和感を検証する。

上西 充子 著
キャリアデザイン学部
キャリアデザイン学科 教授
出版社：扶桑社
発行：2021年2月



「させていただく」の語用論 人はなぜ使いたくなるのか

「させていただく」の氾濫はとどまるところを知らない——。なぜ人は使いたくなり、何が違和感を生むのか。「させていただく現象」の謎に迫るべく、意識調査で許容と違和の境界を探り、コーパス調査で発話行為的観点から他の授受表現との勢力関係の変化を探る。それらをコフマン理論による枠組みから再解釈することで、授受表現に生じているシフトを洞察している。

椎名 美智 著
文学部英文学科 教授
出版社：ひつじ書房
発行：2021年1月



英国の人事管理・日本の人事管理 日英百貨店の仕事と雇用システム

職務給の国とされる英国の企業と、日本の企業の間で、仕事と賃金、そして人事管理は、どこまで近づいたのか。名著「イギリスの工場・日本の工場」で示された英国の社会学者ロナルド・ドーアの見直しをもとに、日英の代表的な百貨店を舞台とする労働世界に分け入り、丹念な実態調査により雇用システムの収斂と多様性を探る。

佐野 嘉秀 著
経営学部経営学科 教授
出版社：東京大学出版会
発行：2021年2月



国際協力と想像力 イメージと「現場」のせめぎ合い

国家間の援助の現場で、イメージと現実なぜ乖離（かいり）するのか。援助国と被援助国の視点から要因を考察し、ギャップを超える方法を探る。

松本 悟 他1名 編著
国際文化学部国際文化学科 教授
出版社：日本評論社
発行：2021年3月

※日外アソシエーツ 図書内容情報BookPlusを参照

HOSEI 6・7月号

令和3年6月20日発行
第48巻第5号（通巻724号）

発行 法政大学 総長室 広報課
〒102-8160
東京都千代田区富士見2-17-1
TEL.03-3264-9240

協力 法政大学後援会

企画・制作協力 (株)日経BPコンサルティング

印刷所 図書印刷(株)



法政大学生協同組合書籍部より

<市ヶ谷キャンパス>

本をたくさん読もう、広げよう

生協市ヶ谷購買書籍部は富士見ゲート地下1階にあります。書籍はもちろん、文具や食品も販売し、教習所の紹介なども取り扱っています。書籍は、専門書や資格本、就活やTOEIC®などの対策本のほか、文芸書や文庫本、新書も幅広くご用意しています。

また、学生の読書推進のため「読書マラソン」という活動にも取り組んでいます。本の感想をコメントカードに記入し、オススメの本を広めていく企画です。参加していただけますと、「全国読書マラソンコメント大賞」に選ばれる可能性があります。過去には法政大学の学生のコメントカードが銅賞に輝いたこともありますので、ぜひエントリーしてみてください。今年もたくさんのコメントカードをお待ちしています。（市ヶ谷購買書籍部）



■ Award

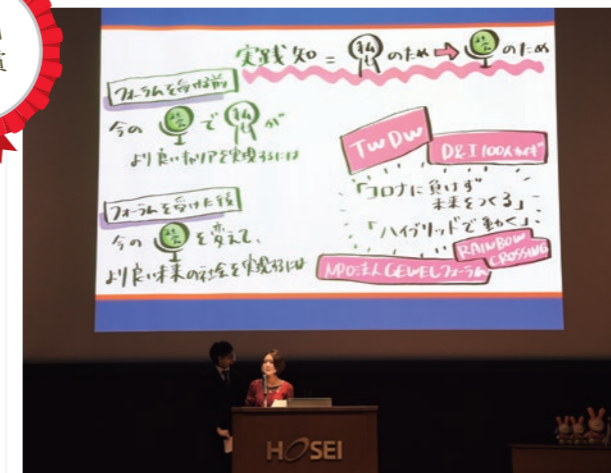
2020年度

自由を生き抜く実践知大賞 3

2020年度「自由を生き抜く実践知大賞」には大学憲章を体現するような実践の取り組みとして10件がノミネート。厳正な審査にて、大賞と大学憲章に連なる本学の理念などのキーワードを冠した4賞、オンライン投票による「よき師よき友が選ぶ実践知賞」の計6賞が選ばれました。ここでは、それぞれの受賞の取り組みを順に紹介します。

実践知探求賞

「講義リレーでつなぐ『実践知』フォーラム」(実践主体：経営学部)

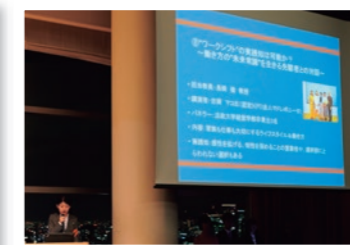


ノミネート理由・活動概要

経営学部創設60周年を記念し、2019年6月から11月にかけて「講義リレーでつなぐ『実践知』フォーラム」と題する公開セミナー・シリーズを、11回にわたって開催しました。テーマには、女性キャリア支援、職場での対話的コミュニケーション、企業の社会的責任など、ビジネス分野における新たな課題が積極的に取り上げられ、講義形式はさまざまながら、各教員がテーマにふさわしい「学びの場」を模索したものとしました。フォーラム全体の運営統括および報告書作成は、二階堂行宣准教授ゼミ所属の学生が担い、全講義に出席後、学生の視点から講義内容と大学憲章との関係を明確化。「実践知・総長大賞」の選出に向けた総長への事前ブリーフィングも担当しました。「経営学部創設60周年記念パーティー」では、経営学部広報委員会編集長を務めた山田理七子さん(当時3年)が総括的報告を行いました。「実践知・総長大賞」は、長岡健教授による対話型講義「ワークシフトの“実践知”は可能か：働き方の“未来の常識”を生きる先駆者との対話」が受賞。この講義は、女性支援に取り組むNPO代表と未来型のキャリアを歩む卒業生3人をゲストに招き、学生と社会人の対話を通じて「女性のキャリアと未来の働き方」のビジョンを探ろうとしたものです。学外ワークショップスペースを会場に、一般聴衆の積極的参加や産学間連携も図りました。



長岡健教授による対話型講義の様子



山田さんによる60周年記念パーティーでの総括

田中前総長*からの選定理由コメント

教職員と学生が一体となって大学憲章に基づく講義を企画した、画期的な取り組みです。多彩なゲストを招いた11の講義は、時宜にかなった魅力的なもので、今後、実践知の教育を展開していく上で重要なモデルになるでしょう。他学部もぜひ参考にしてほしい。この講義の実施期間はコロナ禍とは無関係で、すでに「実践知・総長大賞」も授与していますが、講義全体に賞を授与する機会は今しかなく、今後の授業モデルとなることを期待して、「実践知探求賞」を授与することとしました。

受賞者からの感想

今回ノミネートされた取り組みは個々に独立したのですが、学びを真摯(しんしん)に追求するという点で共通していると感じます。このような取り組みの積み重ねにより、「法政大学憲章」はさらに充実し、コロナ禍という厳しい時代にあっても強く育っていくはず。経営学部はこれからもその先頭に立ち、法政大学に「つどひ、結ぶ」多様な学生やスタッフと共に、この社会の過去・現在・未来を見つめながら、課題解決に努めていきます。(経営学部長 佐野 哲 ※受賞当時)

今後の展望

この講義リレーが完了したのは2019年12月。早くも1年半の時間が過ぎました。その間、私たちを取り巻く環境は激しく変化しました。講義で扱われた知見も、あるものは修正され、あるいは書き換えられ、さらに学問から実践の場へ展開したものもあるでしょう。経営学は、時代の中で揺れ動く企業経営を冷静に見つめる、ダイナミックかつ挑戦的な学問です。講義リレーから得られた知的興奮は多様でしたが、その底流にあったのは、他者への働きかけを恐れず、それぞれの「実践知」を探求する若者たちへの絶対的信頼でした。厳しい状況が続く中、変わるもの、変わらないもの、変えてはいけないものは何か。経営学部では、これからも皆さまと共に考え続けていきます。

※田中優子総長は2021年3月にて任期満了により退任しました。

「自由を生き抜く実践知大賞」の各賞の詳細や表彰式の動画は、HOSEI PHRONESIS(<http://phronesis.hosei.ac.jp/>)をご覧ください。





法政大学をご卒業予定のみなさまへ 卒業袴レンタル

提携業者

ジョイフル恵利 (株式会社ジョイフルまるやま)



ジョイフル恵利 イメージキャラクター 土屋太鳳

レンタル卒業袴専門店

はかまギャラリー あさくさ

早めの予約で
お気に入りを
見つけよう！

期間
限定

5/15-1/31

学内予約会に先駆けて、期間限定で卒業袴専門店がOPEN!

- 法政大学 学内予約会と同じ商品をご覧頂けます。
- 学内限定特典もご利用頂けます！
- はかまギャラリーあさくさ限定衣装も…

※はかまギャラリーあさくさ、及び学内予約会と当社店舗では取り扱い商品・特典は異なります。

選べる! 袴・着物・小物
100種類以上の
豊富な品揃え



学内予約会

日程は、決まり次第ジョイフル恵利のHPにて掲載致します。

トップページ>
学内展示・予約会日程>
「法政大学 市ヶ谷キャンパス」
または「法政大学 多摩キャンパス」

カタログ請求・
学内予約会
最新情報は
コチラから



営業時間 11:00-17:00

定休日 日曜・祝日 ※夏季・年末年始休業あり

住所 東京都台東区寿3-19-5 JSビル2F株式会社ジョイフルまるやま内
地下鉄銀座線 田原町駅より徒歩3分(東横イン上野田原町駅隣)

予約方法 お電話

前日18時まで
03-5806-3591

WEB

前日まで

ご予約はコチラ▶



ジョイフル恵利は、お客様及びスタッフの健康と安全を守る為、新型コロナウイルス感染の防止に努めております。最新の感染予防対策に関しては、弊社HPよりご参照ください。

▶ <https://hakama-joyful-eli.com>

完全予約制

提携業者

Winged Closet (株式会社 曾我)

卒業袴 早期ご予約会

学外にて展示・予約会を開催いたします。

※当予約会はWinged ClosetのHPよりご予約の上、ご来場ください。

来場予約は
コチラ



予約会 会場 株式会社 曾我本社ビル 特設会場
東京都文京区白山5-5-8

開催期間 8月16日(月)~22日(日)
*8月18日(水)は、休業日です

開始時間 ①10:00~ ②11:30~ ③13:00~
④14:30~ ⑤16:00~

主催



株式会社エイチ・ユー

マイコム学生サービスセンター

営業時間 10:00-18:00 ※土・日・祝祭日を除く

電話 03-6388-0435

住所 〒163-1505 東京都新宿区西新宿1-6-1 新宿エルタワー 5階

ジョイフル恵利と曾我の2社は、エイチ・ユー マイコム学生サービスセンターの提携業者です。